

東京外国語大学 留学生支援の会

No.52
年3回発行

Since 1999

会報

新規ご加入、ご寄付くださった皆様のご協力に御礼申し上げます。
日本に来た多くの留学生には、皆様の日常的な支援が必要です！！

Pick Up
Event 2016

秋期バザー開催決定！バザー用品受付：9月26日(月)～10月2日(日)
ボランティア募集！バザー用品の準備・後片付けのご協力者を募っています。

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学留学生課気付 TEL 042-330-5183/5759 FAX 042-330-5189

<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

Contents

Page 1.	1. 巻頭言
Page 2.	2. ご挨拶
Page 3.	3. 事業報告と事業計画(案)
	3-1 平成27年度事業報告
	3-2 平成28年度事業計画(案)
	3-3 平成27年度一般会計収支決算・ 平成28年度一般会計予算案
	3-4 平成27年度特別会計報告
Page 9.	4. 活動報告
	4-1 春期バザー報告
	4-2 工場見学
	4-3 鎌倉見学旅行
	4-4 大国魂神社くらやみ祭り
	4-5 国際理解教育
Page 16.	5. 会員の声
	5-1 ふじのくにから始まった交流
Page 18.	6. 留学生の声
	6-1 現役学生に贈る言葉
	6-2 奨学金支給へのお礼

FOCUS

1. 巻頭言

留学生支援の会へのご挨拶

東京外国語大学留学生課長
大八木繁則

本年4月に留学生課長に就任しました大八木と申します。

「留学生支援の会」の皆様におかれましては、日頃より留学生への様々な事業等を通じ、ご支援をいただいておりますこと、心よりお礼申し上げます。

簡単に自己紹介をさせていただきます。大学卒業年次に総務庁主催の「東南アジア青年の船」に参加させていただき、外国人の青年とプログラムを通じて2か月近く寝食をともにする経験をしました。このことを通じてアジアの同年代の若者が国レベルでの高い意識で物事を考えていることに衝撃を受け、自分も何かこの経験を社会に貢献したいという気持ちになり、留学生支援事業を行う日本国際教育協会に就職しました。

協会では日本語能力試験、駒場及び兵庫留学生会館、留学情報センター等を経験させていただき、また会館チューターとして住込みも経験しました。

その後、組織統合を経て日本学生支援機構となり、本学に来る直前には国費留学生の審査業務を担当していました。当時選考した国費留学生が実際に本学に在学しているのを目の当たりにし、留学生の人生を左右する重要な任務を行っていたことを実感しました。

本学は、スーパーグローバル大学や世界展開力強化事業の採択により、様々なプログラムによる留学生を、多くの国から受け入れています。

この多様性に富んだ留学生を国内で最大級に抱えており、日本人学生も留学生と濃密な交流を行う機会に恵まれているという点が本学の特徴であり、素晴らしいところと理解しています。

本学のグランドデザイン実現のための諸課題においても「豊かな学生生活実現のための環境整備」として「留学生と日本人学生の多様な交流の支援」を掲げています。多様性に富んだ留学生が多いからこそニーズや要望も多様であり、細やかな配慮と手厚い対応が必要になっています。留学生課では可能な限り留学生に対し「個々の要望に則した親切な対応」を目指しているところですが、多様な留学生に対して画一的な対応にならざるを得ない場合があります。

また制度的にも留学生の配偶者やお子さんなど支援の対象から漏れてしまう方もおり、ニーズを的確に把握しきれていない部分もあると反省しています。

これまで「留学生支援の会」においては、中嶋会長をはじめとする多くの会員のネットワークをもって、鎌倉見学等をはじめ、バザー、ホームステイ、資金貸与など、留学生課として対応が届きにくいサポートを長年にわたり実施されてきたと聞いています。

「留学生支援の会」が大切にしている「人との交流」、一人ひとりの気持ちを汲んだ対応がまさに必要とされており、本学のグランドデザイン実現の一端を担っていただいています。

留学生課としては、留学生に「東京外国語大学は、単に留学生数が多いだけでなく、日本人との交流が多く、親身になった対応が素晴らしい」と一人でも

多くの留学生に思ってもらえるよう、「留学生支援の会」と情報を共有しながら、的確なサービスを提供できるよう努めてまいりたいと思います。

今後ご協力、よろしくお願いいたします。

2. ご挨拶

「留学生支援の会」とは？

会長 中嶋洋子

会員の皆様方、飛び石とはいえ長い今年の5月の連休、いかがお過ごしでしたか？

私は“連休ぼけ”といった状況で、このご挨拶に何を書いたらいいものか思案しました。結局、当「留学生支援の会」の存在をもう一度改めて考えてみようと思いました。

というのも、東京外国語大学には、国内外に在住する卒業生の会である「外語会」という組織があるのですが、そこから「留学生支援の会を通じて考えてきたこと」と題して原稿の依頼を受けました。

それを転用させていただき、この際、当会の存在を皆様と共に考えたいと思います。

留学生支援の会成立の経過

夫の中嶋嶺雄が外語大学学長在任中、例えば留学生の住まい決定の際の保証人の問題、あるいはホームシックへの対処、生活のもろもろの場面での相談事への対処など留学生課だけでは覆いきれない問題がありました。

どうしてもこれらに丁寧な対応をする組織が必要だとの中嶋の判断から、私自身の退職後の時期に合わせ「留学生支援の会」を立ち上げ、私が会長を引き受けることになりました。

以来、これまで入会してくださった会員の方々に加え、毎年の入学式の際、保護者の皆様にも次のような内容のお願いをして多くの方々に会員になって

いただき、会費収入に依って当会の運営を行っています。

活動内容

当会は留学生のために、年間をとおして支援事業、友好交流事業などの企画、運営を行っています。

○歌舞伎教室鑑賞と懇親会

○東京下町文化体験ツアー（隅田川クルーズ、浅草散策、江戸東京博物館、ちゃんこ鍋の懇親会）

○60 数か国から外語大に来ている留学生による“各国文化紹介”

○1 日鎌倉見学バスツアー

○日本文化体験（着物着付け、茶道、華道、書道、囲碁、将棋など）

○当会連絡室を毎日午後開室、担当者が各種相談に対応

○奨学金の支給、学会出席への支援金の支給、緊急貸付金制度など

○国際理解教育と称して近隣小・中学校での留学生による説明の場の設定

○以上の企画はすべて日本人学生との交流の場となるように配慮

留学生、日本人学生に期待すること

留学生支援の会は留学生の教育が目的ではなく、教育以外の生活全般に関して、可能なかぎり支援したいと思っています。

その結果、日本に留学して本当によかったと充実感を以って留学生活が終えられたなら、これほど嬉しいことはありません。

同じく日本人学生も大半が親元を離れ生活してい

るので状況は共通点があり、当会は日本人学生と留学生とわけ隔てなく接しているつもりです。

REPORT

3. 事業報告と事業計画

3-1 平成27年度事業報告

A. 生活支援事業

1. 給付事業

(1) 留学生支援の会奨学金を支給。

学部生 1名 月額5万円1年間

大学院生3名 月額8万円1年間1名、
半年間2名に支給

(2) 生活用品などを廉価で給付するバザー。

1) 春期バザー

期日 4月6日～7日

場所 国際交流会館2号館交流ホール
来場者 約200名

2) 秋期バザー

期日 9月29日～30日

場所 国際交流会館2号館交流ホール
来場者 約200名

(3) 学会発表旅費の助成金を支給。

海外学会発表 1人5万円を7名

国内学会発表 1人2万円を2名

(4) 博士論文印刷費補助金。

今回はありませんでした。

(5) 入院見舞金を支給しました。

1万円1名

2. 貸与事業

緊急貸付金を貸与。

「留学生緊急貸付基金」より、授業料納入等で困窮している留学生に貸与しました。

<内訳>

今期貸与 4名 470,000円

返却 7名 310,000円

貸付総額 4,328,400円

平成28年度当初貸付可能額 895,161円

3. 相談事業

留学生の住居・学費・引っ越し、アルバイト等に関する相談に対応しました。

B. 友好親善事業

1. 国際交流事業

○国際交流の夕べ（留学生交流会）を大学と共催しました。

平成27年12月11日（金）、大学会館
留学生200名、日本人学生50名、
来賓、大学、支援の会等50名
合計300名参加

2. 会員等の協力による友好親善事業

(1) 会員の協力によりホームステイを受入れていただきました。

1) ふじのくに留学生支援の会による
「ふじのくに留学生ツアー」

平成27年8月 1～3日 留学生 9名
平成28年2月22～24日 留学生18名

2) 会員によるホームステイの受入れ（22名）
<内訳>
東京都12名、大阪府5名、和歌山県5名

(2) 地域の文化行事に参加しました。

1) 紅葉丘文化センターの秋祭りに参加。
平成27年10月18日 留学生12名

2) 武蔵野ライオンズクラブの日本伝統文化
交流会に参加。
平成27年10月17日 留学生7名

C. 日本理解事業

1. 伝統文化の見学

(1) 日本の伝統文化を見学

1) 歌舞伎を見学し、懇親茶話会を開きました。
平成27年6月7日（日）
国立劇場「歌舞伎鑑賞教室」
留学生61名、日本人学生7名、幹事6名
大学事務局2名：合計75名参加

2) 東京下町文化体験ツアー

平成27年12月6日（日）
隅田川クルーズ、浅草散歩、江戸東京博物
館を見学し、ちゃんこ鍋を囲む懇親会。
留学生33名、日本人学生11名、
幹事12名：合計56人参加

3) 鎌倉史跡見学バスツアー

平成28年3月30日（水）
留学生31名、日本人7名、幹事5名、
鎌倉会員5名：合計48人参加

4) 大国魂神社くらやみ祭

平成27年5月4日（月）
留学生25名、日本人学生2名、
幹事2名：合計29名参加

(2) 伝統文化の体験

1) 伝統文化体験教室を大学と共催しました。
平成27年12月11日（金）学生会館等
振袖着付け、華道、茶道、墨絵、折紙、
和紙人形、囲碁
留学生170名参加

2) 伝統文化指導教室を開催しました。
通年週1回
華道、茶道、書道、囲碁
留学生200名参加

3) 日本語広場を開催しました。
講師 3名、受講者 7名（のべ200名）

4) 七夕茶会を開きました。
平成27年6月30日（火）
留学生24名、日本人学生20名参加

(3) 特徴ある企業の見学

羽田空港及びANA整備工場を見学。
平成28年3月15日（火）
留学生32名、日本人学生6名、
幹事11名：合計49名参加

D. 国際理解事業

1. 各国文化紹介

各国のお茶とお菓子を通しての文化紹介。
平成27年10月21日（水）
アルメニア、シリア、アゼルバイジャン
参加者 200名

2. 国際理解教育へ協力

小・中・高校の国際理解教育の授業へ留学生を
派遣しました。
府中市立四谷小学校
第十小学校
若松小学校
武蔵台小学校
川崎市西生田小学校
はるひの中学校
立川市立楯原中学校
町田市立真光寺中学校

E. 広報その他の事業

1. 支援の会の「会報」を3回発行しました。
第49号 平成27年 6月
第50号 平成27年11月
第51号 平成28年 2月
2. フェイスブックに作成したホームページに
行事の写真を掲載しました。
<https://www.facebook.com/tufs.issa2>
3. 大学新入生入学式等の際に会員募集の説明
をしました。
4. 幹事会を開催して、行事の企画・運営等を
相談しました。
平成27年 4月 4日(土)
5月17日(日)
6月21日(日)
7月12日(日)
9月27日(日)
11月 1日(日)
11月28日(土)
平成28年 1月17日(日)
2月 6日(土)
5. 会員数 989名 (平成28年3月31日現在)



[↓↑ くらやみ祭り万燈前で]
(14ページからの記事を参照)



3-2 平成28年度事業計画

A. 生活支援事業

1. 給付事業

- (1) 支援の会奨学金の支給
大学院生 1名 月額 8万円 1年間
- (2) 生活用品・図書のバザー (廉価で給付)
1) 春季バザー 4月6日(水)～7日(木)
2) 秋季バザー 10月3日(月)～4日(火)
- (3) 学会出席旅費の助成金
国外開催の学会 1人5万円
国内開催の学会 1人2万円、計30万円
- (4) 入院見舞金
入院5日以上、1人1万円

2. 貸与事業

「緊急貸付基金」より授業料等、緊急に必要な経費のために貸与。

3. 相談事業

留学生の住居・学費・法律・引越し・子供の教育等の相談に対応する。

B. 友好親善事業

1. 国際交流事業

「国際交流の夕べ」の開催 (大学と共催)
留学生全員と一部日本人学生を招待。
12月中旬予定 福引賞品の提供

2. 会員等の協力による友好親善事業

- (1) ホームステイ・ホームビジットの受入れ
- (2) 地域の文化的行事への参加



C. 日本理解事業

1. 伝統文化の見学

- 1) 国立劇場「歌舞伎鑑賞教室」見学
6月5日(日)
- 2) 東京下町文化体験ツアー
墨田川クルーズ、浅草・江戸東京博物館・
相撲ちゃんこ鍋
11月か12月予定
- 3) 鎌倉見学旅行
鎌倉の文化遺産と自然の見学
平成29年3月予定
- 4) 地元のお祭り等の文化的行事の見学

2. 伝統文化の体験

- 1) 「伝統文化体験教室」開催(大学と共催)
12月中旬予定
- 2) 日本語広場の開催
週2回
- 3) 「伝統文化指導教室」開催
茶道・華道・書道・囲碁・将棋・尺八
- 4) 七夕茶会を開催
7月初旬予定

3. 特徴ある企業見学

東京近辺の企業(予定)

D. 国際理解事業

1. 各国文化の紹介

テーマ ー私の国のお茶とお菓子ー
開催 年1回 3か国

2. 国際理解教育授業への協力

小・中・高からの要請を受けて、国際理解
教育の授業に留学生を派遣

E. 広報その他の事業

1. 「支援の会会報誌」の刊行

- 第52号(平成28年6月)
第53号(平成28年11月)
第54号(平成28年2月)

2. ホームページ、フェイスブックの運営

3. 会員募集のための諸活動

大学入学式の際など

4. 幹事会の開催(毎月)



[↓↑ くらやみ祭り万燈前で]
(14ページからの記事を参照)



3-3 資料：会計報告と予算

平成27年度（平成27年4月～平成28年3月）一般会計収支決算

《収入の部》

科目	項目	27年度予算額	27年度決算額	摘要
前年度繰越金		4,661,755	4,661,755	
会費	一般会員	3,459,000	3,267,000	5,000円×272名=910,000 12,000円×204名=2,448,000
	協賛会員	60,000	20,000	20,000円×1名
寄付	一般	400,000	435,302	
	緊急貸付基金	-	-	
その他	バザー一等	500,000	441,600	バザー収益金-行事参加費
	利息	500	593	
収入の部合計(A)		9,081,265	8,826,250	

《支出の部》

科目	項目	27年度予算額	27年度決算額	摘要
活動費 (友好親善事業・相互理解事業)	国際交流行事共催費	450,000	447,184	伝統文化体験費・交流会費(大学との共催)
	史跡見学費	300,000	295,882	鎌倉見学
	日本文化見学費	600,000	673,385	歌舞伎見学・東京下町体験・ふじの国・くらやみ祭り
	日本先端技術見学費	200,000	175,340	先端技術工場見学
	日本文化体験費	250,000	325,124	雑遊・書道・茶道・日本橋広場
	日本人学生との交流会費	200,000	110,023	茶・菓子等
	その他の交流活動費	50,000	138,365	国際理解教育謝金・交通費
活動費 (生活支援事業)	留学生支援の奨励学金	2,520,000	2,520,000	奨学金3名
	教育研究支援金	500,000	390,000	学会発表出席旅費補助金
	連絡室協力謝金	600,000	772,000	留学生連絡室協力謝金
	入院見舞金	60,000	10,000	入院見舞金
活動費 (広報普及事業)	通信費	260,000	256,365	金報発送費等
	印刷費	250,000	388,179	金報印刷費等
	活動費小計(a)	6,250,000	6,501,647	
運営費	消耗品費	20,000	9,774	プリンターインク代
	備品費	20,000	9,981	バザー用ハンガーラック
	連絡室運営費	35,000	25,111	連絡室用携帯電話使用料
	郵便振替手数料	50,000	52,632	郵便振替手数料
	その他	10,000	22,295	
	運営費小計(b)	135,000	119,793	
予備費	(c)	100,000	-	
繰入金	緊急貸付基金(d)	200,000	289,000	バザー収益金
支出の部の合計(B)	(a)+(b)+(c)+(d)	6,685,000	6,890,440	
次年度繰越金	(A)-(B)	2,396,265	1,935,810	

上記の通り相違ございません。

平成28年5月24日

監事 川口 健一 (M)

3-3 資料：会計報告と予算

平成28年度（平成28年4月～平成29年3月）一般会計予算

《収入の部》

科目	項目	28年度予算額	摘要
前年度繰越金		1,935,810	
会費	一般会員	3,060,000	3,000円×240名 12,000円×195名
	協賛会員	40,000	20,000円×2名
寄付	一般	400,000	
	緊急貸付基金	-	
その他	バザー等	550,000	バザー収益・国際交流のタペカンパ・行事参加費
	利息	500	受取利息
収入の部合計(A)		5,986,310	

《支出の部》

科目	項目	28年度予算額	摘要
活動費 (友好親善事業・ 相互理解事業)	国際交流行事共催費	370,000	伝統文化体験費・交誼会費(大学との共催)
	史跡見学費	300,000	鎌倉見学
	日本文化見学費	670,000	歌舞伎見学・東京下町体験ツアー・ふじの国ツアー
	日本先端技術見学費	200,000	先端技術工場見学
	日本文化体験費	330,000	華道・書道・茶道・日本語広場
	日本人学生との交流会費	100,000	茶・菓子・昼食等
	その他の交流活動費	150,000	国際理解教育交通費・謝金
活動費 (生活支援事業)	留学生支援の会奨学金	960,000	奨学金1名
	教育研究支援金	300,000	学会発表出席旅費補助金
	連絡室協力謝金	600,000	留学生連絡室協力謝金
	入院見舞金	50,000	入院見舞金
活動費 (広報普及事業)	通信費	300,000	会報発送費等
	印刷費	280,000	会報印刷費等
	活動費小計(a)	4,610,000	
運営費	消耗品費	20,000	プリンター・インク代・コピー用紙代
	備品費	20,000	
	連絡室運営費	25,000	連絡室用携帯電話使用料
	郵便振替手数料	50,000	
	その他	10,000	
	運営費小計(b)	125,000	
繰入金	緊急貸付基金(c)	-	
支出の部の合計(B)	(a)+(b)+(c)	4,735,000	
次年度繰越金	(A)-(B)	1,251,310	

3-4 平成27年度特別会計

(緊急貸付基金) 報告

(平成27年4月～平成28年3月) 単位：円

1	前年度期末基金総額	: 5,904,561
2	バザー収益金	: 269,000
3	今期基金総額(1+2)	: 6,173,561
4	前期末貸付残額	: 4,168,400
5	今期貸付額 5件(授業料4件、生活費1件)	: 470,000
6	今期返済(回収)額	: 310,000
7	期末貸付残額(4+5-6)	: 4,328,400
8	損金計上	: 950,000
9	貸付可能繰越金(3-7-8)	: 895,161
10	次年度期初基金総額(3-8)	: 5,223,561

今年度は、緊急貸し付け基金を開始してから15年目になります。開始時は、160万円だった基金総額が、現在500万円強になりました。その間に、460名以上の留学生が学費、家賃、生活費などの理由でこの基金を利用し、留学生生活を続けてきました。これもひとえに会員の皆様のご支援のおかげと感謝しております。

今年度も、政府からの授業料免除関係の予算が増えて、留学生の免除申請者の半数以上が全額免除者となったため授業料のための貸付件数は減りました。しかし一方で、家族の経済事情が悪化し親を助けるために休学して帰国したり、アルバイトの中から親に仕送りをしたりしなければならず、そのため精神不安定になったり等、様々な事情で貸付金を返済する余裕がない学生が増えています。

また、在学中は返済できず就職後返済の約束が、就職先が倒産で返済が延び延びになって、連絡がとだえてしまった人もいます。

私達はこれまで出来る限り連絡と催促に努めては来ましたが、このような事情で今期は貸付運用指針に基づき、回収が極めて困難と思える95万円について、**損金処理**をすることになりました。

(貸付担当幹事 梅田由美子)

REPORT

4. 活動報告

4-1 [春期バザー]

2016年春期バザーへのご協力 ありがとうございました

会長 中嶋洋子

今年は4月3日が入学式だったので、バザーも早めに4月6日、7日の2日間、交流会館2号館の交流ホールで開催しました。今回も多くのお客様、大学関係者、近隣の方々から多種多様な品物を送って頂きました。

電気炊飯器、冷蔵庫、電子レンジ、掃除機、アイロン、洗濯機等々の電器製品、自転車、寝具類、文房具、靴、春夏用衣類、着物、机、本箱、鍋、フライパン、ケトル等の台所用品、日用雑貨、食品など、会場に収めきれないほど、沢山ありました。

掲示やオリエンテーションでの説明だけでなく、チラシの手渡しなどが功を奏して、留学生は2日間で250人ほどが参加しました。

今回は、新品の電気製品、自転車は1,000円、新品の寝具は500円、その他はみな100円以下、書籍は無料で配布しました。自転車は抽選にしましたが、4台の自転車に30名以上の応募者がありました。

参加した留学生たちは、新しい生活を始めるのに必要なものが、バザーでそろえられることがとても嬉しい、こんなに安くていいの？信じられない！といいながら色々を選んで、喜んで持ち帰っていました。

着物を試着して、帯、羽織などセットで揃えてもらい、喜んでいた留学生、子供用の服をたくさん持ち帰った留学生、日本語関係の書籍や絵本、辞書など沢山選んで帰っていく学生など、皆ありがとうございます！と感謝していました。

支援の会としましても、役に立てて良かった。皆様のご協力のおかげ、と疲れなど吹き飛ばしていました。

最後に、お皿やコップ、台所用品、若者向きでない衣類、本などが幾分残りましたが、次のバザーに回すことにしました

バザーの収益金は、143,000 円でした。

いつもながら毎回、送料もいとわず、様々な品物を提供して下さった会員の皆様には、留学生ともども心から感謝申し上げます。

4-2 [工場見学]

ANA機体整備工場見学

1. 日時 3月15日(火) 9:00~17:30
2. 参加者 留学生32名、日本人学生6名、留学生支援の会11名:計49名

<バス車中>

3月の半ば、ようやく春の息吹が感じられ始めた頃であったが、当日は好天に恵まれて総勢47名(2名は羽田国際線ターミナルで合流)で出発した。

平日であったせいか、懸念した高速道路の大渋滞もなく、順調に走行してほぼ予定通りに到着。当日初めて知ったことではあるが、我々が搭乗したバスはなんと当日が運行デビューとのことで、非常に綺麗な車内で快適に過ごせた。

<羽田空港国際線ターミナル>

3時間に及ぶ自由時間。参加者を8つの班に分けての自由行動であったが、日本人学生の参加が6名と少なかつたため、幹事2名が班長役を担った。

この国際線ターミナルは羽田空港の本格的な国際線拡大方針に則って、2010年のD滑走路運用開始に合わせて完成したもの。日本の伝統と新しい息吹とを同時に感ずること

ができるので、我々日本人にも楽しめる場所である。

まずは4階のショッピングゾーン、そして5階および屋上の展望デッキを見学した。当日は快晴に恵まれてデッキからは東京地区全体が見渡せ、スカイツリー・新宿の高層ビル群なども眺めることができた。

もちろん、国際便の発着を目の当たりにできたが、複数の留学生から「ここにいると、短時間でもいいから祖国へ飛んで帰りたいくなる。でも、またすぐに必ず日本へ戻ってきたい」との声が聞かれた。

この国際線ターミナル最大の見どころの一つが“はねだ日本橋”。実物の日本橋の2分の1の大きさで造られたこの魅力ある建造物は、まさに4階と5階とを繋ぐ役割を担っている。

留学生達は、かつて東京から西国への長い旅立ちのスタートでもあった日本橋の位置づけを学び、また壁に架けられていた浮世絵風景画で、江戸城・増上寺等の佇まいや当時の江戸の生活とを垣間見ることができた。

3時間の自由時間のハイライトといえばやはりランチタイムであり、それぞれ相談しながら種々のレストランに席を陣取った。

多くの班はやはり和風の食事を選んでいたのである。幹事もそれぞれに各班に加えてもらって会食させていただいた。

場所柄やや高め of 価格設定であり、メニュー選択に多少苦慮したのではと想像する。食事が終わったらまた再集合時間までショッピングか、と思いきや、ほとんどの班が一か所に集結した。

思いは皆同じ“甘味喫茶”であったようだ。

当初自由時間がやや長すぎるのではないかと懸念したが、各班ともそれぞれの交流で有効に時間を使っただき、意外にも瞬く間に過ぎてしまった。

<ANA機体整備工場>

49名という大デレゲーションではあったが、巨大な飛行機の整備を間近に見学できた。

工場見学—留学生支援の会の バスツアーに参加して

研究生

ディナザレ・フィゲラフ・ラビオ
(ブラジル)

3月15日に留学生支援の会のバスツアーで羽田空港と全日本空輸(ANA)の整備工場へ、見学しに行きました。

羽田空港についたらいくつかのグループに分かれて自由に羽田空港国際線ターミナルを見学しました。昔の江戸をモチーフとしたHaneda Pop Townに行って、日本橋の複製品を渡ったら、まるでタイムスリップをしているような感じでした。様々なかわいいグッズが並んでいた店を見たり、美味しそうなレストランの中で自由に選べたりしました。

前半の概説は、子供にも理解させるという目的もあってか、学生達にはやや簡単過ぎたとも思われるが、巨大な機体を空気の流れだけで持ち上げるという原理と、機体重量の軽さを強調していた点がポイントだった。

後半はいよいよ現場見学。屋内で見る機体の巨大さと、そこに足場を組んで組み上げた整備デッキとの関係が見事である。この間、タイヤも間近に眺めることができ、その交換頻度等を始めとする安全確保への熱意を感じ取ることができた。

見学終了後のギフト品ブースを眺めながら、名残惜しい羽田空港を後にした。

(幹事 中村)

[↓ANA 整備工場にて集合写真]





[↑はねだ日本橋にて]

その中で展望デッキは非常に興味深かったです。当日晴れていたなので、青空の景色で遠くまで見る事が出来ました。

短い時間間隔で次々に離陸したり着陸したりしていた様々な会社の飛行機を見ることができて、空港がまるで電車の駅のように見えました。こんなに連続して飛行機が飛んでいることを想像できなかつた私にとって結構驚きでした。

それに、羽田空港国際線ターミナルの飛行機のシミュレータで遊ぶことも可能でした。皆に結構人気で、やってみた人が多かったです。最初は普通のゲームに見えたシミュレータをやってみれば、離陸や着陸を何回も失敗するので、飛行機のパイロットはどんなに難しい仕事をしているのかを想像できました。

昼ごはんの後、もう一度集合して、ANA 整備工場へ見学しにいきました。整備工場ではANA の飛行機が各国で作られた部品で仕上げられていることを教えてもらって、グローバル化の印象を持ちました。実際の工場を見る前に、一つのガイダンスがあって、飛行機はどの仕組みで飛んでいるのを教えてもらいました。

今まで魔法のように飛んでいた飛行機を簡単な物理的な説明でどのように飛んでいるのを説明してもらって非常に面白かったです。それに飛行機を作るのに具体的にどのくらいかかるかや、飛行機のタイヤにどのガスを使っていることなどを教えてもらったので、飛行機はどんなに複雑なものかを理解できてきました。

ガイダンスの後、実際の工場に行きました。あそこで本当に近くから生で飛行機を見ることができました。近くから見ると飛行機は非常に大きく見えました。

現場で働いているスタッフから、どうやってメンテナンスが行われているのか説明してもらいました。飛行機はまるでおもちゃのようにいろいろな部品で分けられて、非常に細かいプロセスで整備されているのを見たら、飛行機はいかに多くの人の力で飛ぶものかということが分かりました。

日常生活で普通に使われている飛行機のことを少しでも理解できて、大事な経験になったと思います。それに支援の会の皆様と留学生の皆と、様々な面白い話ができてとても楽しかったと思います。

4-3 [鎌倉バス旅行]

古都鎌倉見学旅行のしおり (抜粋)

1. 日時 3月30日(水)
2. 参加者 留学生32名 日本人学生4名
鎌倉在住会員5名
留学生支援の会5名:計46名



[↑大仏前で集合写真]

[古都鎌倉見学旅行の日程]

笹岡副会長が作成した「鎌倉見学旅行」
日程の絵によるガイドを掲載します。

※会報第50号に「東京下町文化体験ツア
ー」の絵によるガイドを掲載しています。

 8:30 新宿西口出発		<p>武士と中国の僧祖元が 1282年に創建。 がぜん座禅を組んで、仏の道を考える。</p>
<p>10:00着 エンカクジ パツキョウ 円覚寺(仏教)</p> <p>10:50発</p>		<p>昔の天皇・皇后を まつつてある。1180年。</p>
<p>11:10着 ツルガオカ ハチマンゴウ 鶴岡八幡宮 (神道)</p> <p>11:50発</p>		<p>ランチは 海産物料理 と会話を楽しむ。</p>
<p>12:10着 レストランわかみや (昼食)</p> <p>12:50発</p>		<p>海岸で 海の自然を 楽しむ。</p>
<p>12:55着 エイ ハマカイガン 由比が浜海岸</p> <p>13:20発</p>		<p>10メートルの カンインボツゾウ 観音菩薩像で有名。 寺は750年頃か(?)</p>
<p>13:40着 ハセダラ 長谷寺(仏教)</p> <p>14:30発</p>		<p>高德院寺の阿彌陀座像。 高さ13.35m。 初め木彫、 1252年金銅鑄造。</p>
<p>15:00着 ダイブツ 大仏(仏教)</p> <p>16:00発</p>	 17:30 新宿着	

鎌倉見学旅行を手伝って

中国語学科昭和51年卒業生
大石由紀雄

「今回は是非ガールフレンド、ボーイフレンドと一緒に鎌倉に遊びに来てください」。

ツアーの最終地点、大仏横の駐車場で鎌倉側のお手伝い5人が観光バスの中で挨拶することになり、フレンドリーにと急きょ思いついた言葉だ。別れの手を振る留学生を見送りながら、少しばかりの充実感があつた1日だった。

今回初めて鎌倉側のお手伝いに加わったのは、E昭和36年卒の野中千恵子さんに「命令」されたから。同じスポーツジムの会員で、ある日「鎌倉側も高齢化しているので手伝って」と言われ、大先輩に従った。

当方の役割は、留学生が迷子にならないように注意すること。総勢40人と聞いており、到着地点の円覚寺で初対面した時から顔を覚えようと必死だった。

八幡宮前の段葛がリニューアルオープンの日で、とりわけ観光客が多く、留学生を見失うこともしばしばだった。それでも迷子が出なかったのはまさに“奇跡”。東京側のメンバーや鎌倉側の大先輩4人、バスガイドさんらのおかげだったと思う。

どこまで役割を果たすことができたか、一抹の不安が残った初参加だった。感謝不尽。

4-4 [大国魂神社くらやみ祭り]

「大国魂神社くらやみ祭り」ツアー報告

日時 2016年5月4日(水・祝日)

参加者 留学生40名、日本人学生1名、幹事5名

夜来の強風雨も朝には上がり、好天に恵まれたツアーでした。

昨年は春名先生の率いるグループと、留学生支援の会のグループと同時刻に行ったので、本町公会堂で混乱しました。そこで本年は事前に相談し、留学生支援の会での開催に合流してもらうことにしました。

参加学生の内訳は「国費学部進学留学生」(英語のみ)14名、「日本語、日本文化研修留学生」(日本語可)16名、留学生支援の会に直接申し込んだ留学生10名に、日本人1名が加わり合計41名でした。(事前予約は47名、無断欠席7名、当日参加1名)

外大からの「ちゅうバス」の定員が30名なので、9時30分発と10時発とに分乗しました。参加人数が多いので、観光ガイドの方と相談し、5組(英語ガイド2組、日本語ガイド3組)に分けました。色分けした名札と旗を使って、グループを見分けました。

本町公会堂では、お祭り用の法被(はっぴ)を着て、色鮮やかな万燈の前で写真を撮りました。(本号5、6ページに写真掲載)

次に甲州街道と府中街道の交差点の御旅所では、江戸時代の情報センターの役割を果たしたとの説明を受けました。本殿の周りの東照宮、松尾神社、大銀杏の木(触るとお乳の出がよくなるという)、御本殿奥に納まっている御神輿を見学しました。

12時半からの万燈大会の華麗な行事を楽しみ、境内の屋台を見ながらフォーリス前に着き、アンケートを記入してもらった後、13時頃解散しました。

その後、自由に神社内や街を散策したようです。期待していた野口酒造の試飲がなかったことは残念でした。

府中観光情報センターのガイドの方々には今年もたいへんお世話になりました。

(幹事 杉森)



[↑御旅所は江戸時代にお触れを掲示したところ]

くらやみ祭りの感想

日本語日本文化研修留学生
毛晨 (マオ・シン) (中国)

最初は「くらやみ祭り」とはどういうことなのかわからなかった。名前を聞くと何となく怖いイメージを思い浮かべた。ちょっと調べてみると、かつて街の明かりを消した深夜の暗闇のなかで行われていたため「くらやみ祭り」と呼ばれるようになったとのことである。

祭りが暗闇に行われる理由は、貴いものを見ることは許されないという古来から存在する儀礼に起因している。神聖な御霊が神社から神輿に移り御旅するには、人目に触れることのない暗闇でなければならぬという、神事の伝統がそのまま現代まで引き継がれているのである。

私たちは5月4日に、くらやみ祭りを見に行った。普段の府中市と全然違った雰囲気を感じた。とても賑やかで、人々は祭りに合う服を着て楽しそうな顔をしていた。

神社に行く道の両側にたくさんのお店が並んでいた。みなさんは物を買ったり、食べたりした。こういう光景を見るだけで、テンションが上がった。もちろん、私もいっぱい食べた。例えば、リンゴ飴、カキ氷、お好み焼き、焼き鳥などである。おいしくて値段もそんなに高くなかった。

食べ物だけではなく、たくさんの知識も得た。府中市の歴史や、祭りも由来、儀式など、いろいろ教えてもらった。とても意義がある一日だった。

くらやみ祭りの楽しみ

日研生
シバタ ヤマニシ ファビオ タカシ(ブラジル)

数十名の留学生と共にくらやみ祭りへ行きました。

長い伝統を誇る祭りで、大國魂神社で行われています。ボランティア・ガイドさんの案内のもと、神

社と武蔵国の関係や祭りの伝統について学ぶことができ、さらに法被を着ることができました。

まず人の多さに驚きました。山車や大太鼓が通るときには身動きが取れないくらいでした。

また屋台がとても充実していました。食べ物の匂いについつい惹かれ、私も一緒にいた友人たちも必要以上に食べてしまいました。

万燈大会や大太鼓の巡行は迫力満点で、想像以上に楽しめました。夏が始まったということできさらに色々な祭りが行われると思うのでとても楽しみです。

「くらやみ祭り」見学に参加して

埼玉県教育委員会派遣教員
埼玉県立川越南高等学校教頭
内田正俊

留学生支援の会の皆様には、日頃から留学生の物心両面にわたり支えになっていただいていると、うかがっております。この場をお借りして感謝申し上げます。

私は国語の教員で、ネイティブ日本語話者に古典などを教えてきました。

2016年度の1年間、埼玉県教育委員会から派遣され、留学生日本語教育センターでお世話になっています。国語教育と日本語教育とはまったく違うので日々新鮮で勉強になります。先生のお手伝いをしたり、いくつかの授業には留学生と参加し議論に参加したりしています。

毎日通勤の際、大國魂神社のあたりを通りますと、すがすがしい空気に包まれています。神殿に向かって礼をしている人を多く見ます。心が洗われる思いがします。

今回、おさそいをいただき、5月4日(水)に留学生とともに「くらやみ祭り」を見学してきました。大学からちゅうバス2台に分かれ、府中駅合流の人を加えおよそ40名の一行になりました。天気が心配でしたが、祭関係者の気合いからか、未明からの雨も上がり暑いくらいの陽気になりました。

グループに分かれ、府中観光協会の方々のでい

ねいなご案内で大國魂神社の境内や鎮座する宮神輿、御旅所、野口仮屋などを見学しました。

途中の本町一丁目公会堂で留学生は祭法被をお借りして記念写真を撮ったりしました。支援の会から飲み物やおにぎりなどの差し入れをいただき、子ども神輿に声援を送ったり、数々の露天商に興味深く眺めたりと、留学生にとっても日本の文化に触れる機会になったものと思います。

最後は華やかな万燈大会を見学。町内会の青年会が中心に趣向を凝らした万燈を制作し競うものだそうです。やや風が強かったので振り手は大変だっただろうと思います。

支援の会の皆様のご配慮をいただき、私自身も新たに知ることが多く、留学生とも親しく話ができ有意義な一日でした。

解散後、隣接するふるさと府中歴史館の祭に関する特別展にも寄ってみました。山車や神輿が渡る夜が祭のクライマックスとなり、神秘的な神事もあるようです。6日(金)の出勤時にちょうど神輿還御の一行が大國魂神社に戻るところに出会いました。

くらやみ祭りは、まだまだ奥が深そうです。

4-5 [国際理解教育]

今年度も8つの小・中学校の国際理解の授業に30人以上の留学生が参加し、自国の社会や文化について発表し、子供たちと楽しく交流しました。以下は、府中市の若松小学校での授業に参加したペルーからの留学生の報告です。

小学校で日本の子供たちと交流して

日研生
大城夏美(ペルー)

2016年5月27日に府中の小学校を訪ねました。初めに、体育館で生徒のほうから日本の様々な文化を紹介され、とっても素晴らしかったです。空手や剣道、太鼓などのプレゼンテーションがありました。

その後、留学生5人が一つの教室にて、自国について紹介をしました。私は、ペルーと日本を比較しな

がら、ペルーの習慣や伝統的な食べ物、観光地や教育などについて説明しました。

その後、生徒から様々な質問をされました。最後に、私たち留学生は日本の遊びを体験しました。例えば、折り紙やカルタなどを体験することが出来ました。とっても楽しかったです。

小学校での交流の経験は良かったと思っています。それは、自分の国について日本人の子供に伝えることができたからです。そして、日本人の子供とあまり会う機会が無いので、これはちょうど良い機会だと感じました。

その一方、私も日本の文化に少しでもアプローチできて、感謝しています。嬉しいことに、お互いに他の国のことについて勉強になったと感じました。



[↑若松小学校に集まった5人の留学生(プラカードを持っている人)]

VOICE

5. 会員の声

ふじのくに留学生ツアーから 始まったチェコ留学生との交流

沼津市在住
佐野典子

2月23日は富士山の日。この日を挟んで3日間にわたって行われる「ふじのくに留学生ツアー」を、私たち家族は毎年心待ちにしています。

ここで出会う各国からの留学生は向学心にあふれ、自分の考えをしっかりと持った素敵な方ばかり。

3日間行動を共にすることで、私たちはあらゆる国のことを知り、また、日本が外からどう見えているのか知ることができます。本当に貴重な体験です。

実はこのツアーを誰よりも楽しみにしているのはわが家の子供たちです。初めて参加した時、息子の太郎は8歳、娘の小春は5歳でした。

最初は留学生に声をかけることすらできませんでしたが、回を重ねるごとに交流を楽しめるようになりました。留学生の皆さんが子供たちに積極的に関わろうとしてくれるおかげです。

わが家に初めて男子留学生、チェコの特マーシュをお迎えした時に、彼と太郎は大親友になりました。トマーシュは約束通り二度にわたってこのツアーに参加してくれて、最後の日に別れが辛くて太郎が大泣きました。情け深いトマーシュもまた涙して、東京に向かうバスの窓からいつまでも手を振ってくれました。

トマーシュとはその後もずっと交流しています。

一昨年には家族がチェコの彼の家に招かれました。今度はホームステイしてもらおう側となり、温かなもてなしに感激しきりでした。

人なつっこい太郎に比べると小春は少し恥ずかしがり家で、ツアー中にもなかなか留学生に話しかけることができません。そこで仲良くなるきっかけとして「ノートにサインをしてもらったら？」と提案しました。

すると、どの学生もサインだけではなく娘のため心を込めてイラストやメッセージを書いてくれたのです。

一見するとクールな留学生ほど温かなメッセージを書いてくれます。娘が留学生と親しくなるのにこのノートは絶大な力を発揮してくれました。今では二冊になったこのノートは私たち家族にとっても宝物です。ページをめくれば世界中の友達の顔を思い出すことができます。

留学生のおかげで、子供たちは広い視野を持って将来に夢を描けるようになりました。学校では決して学べないことをここで体験しています。

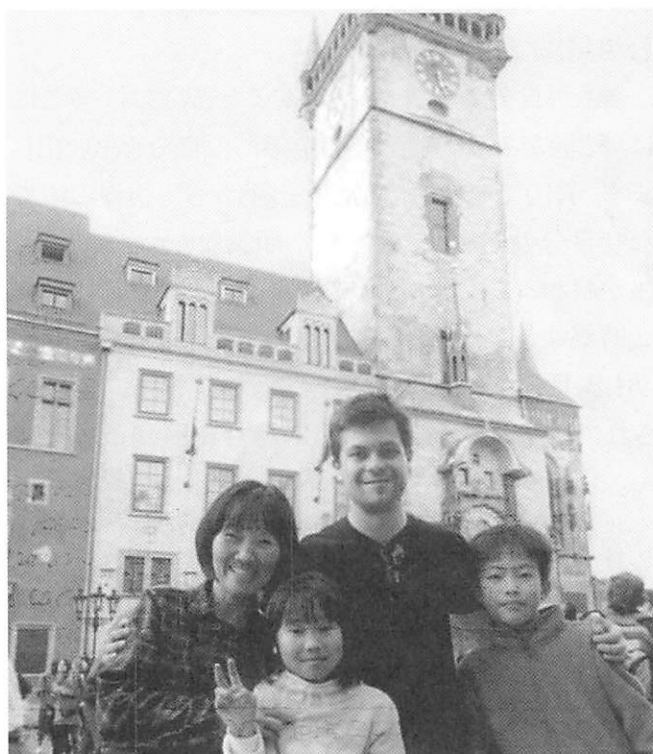
今でも多くの学生さんたちの活躍ぶりをフェイスブックで見えていますし、メッセージの交換をしています。自分の国を案内したいと言ってくれる方もいて、訪ね

たいと思う国は増えるばかりです。外語祭に出かけて、留学生の皆さんと再会することも私の楽しみになりました。

日本にいながらにしてこんなに豊かな体験ができることを私たちは本当に幸せに思っています。

素敵な留学生の皆さんに、そしてこのツアーの実現のために力を尽くしてくださる方々に感謝してもしきれません。末永く続いてくれることを祈るばかりです。

次回のツアーは夏休み。どんな出会いがあるでしょうか。今から楽しみにしています。(3月10日記)



[↑ トマーシュとチェコ・プラハにて]



[↑ トマーシュの家にホームステイ]

6-1 現役学生に贈る言葉

人生には遠方と詩がある

2010年卒 日本課程

李 斌(中国)

古今東西、人生に対して様々な角度から解釈されて来ています。その一つとして、私が尊敬している中国の知識人高曉松はこう言います「人生は目先の安逸だけではない、その先には遠方と詩がある」。非現実的かもしれませんが、この一言は実に私が前に進む勇気になっています。

誰もが自分の遠方を探していると思います。そこには夢と涙があるからでしょう。7年前の自分を思い出します。異国での就職活動がうまく行かず、彷徨の中でなぜ自分の運命はこんなに不順調なのかとまるで人生が終わってしまったように凹んでいました。

時がゆき、今となって振り返って見ますと過去の成功も満足も時とともに消えて逝くものでした。結局残されているのは引き続き前に進むことしかありません。

世の中で人を困らせることに、大概金銭や、愛情などがまずあるでしょう。もちろん金銭も愛情も非常に大事です。しかし、それらを得るにはご縁に纏わることもあり、下手して強引に求めますと希望と真逆の効果に繋がる場合もあります。

私は、本当に人を困らせることはたった一つだと思います。「なぜ人は生きているのか」という疑問に対する答えの探索です。それを探求するには、やはり根本的に人はどこから来たのか、またこの世界はどういう仕組みなのかなどを究明することにもなるでしょう。要約しますと、我々にとって本当に必要不可欠なのは世界を知る知識だけだと思います。

人は誰もが自分なりの世界観や価値観など独自で物事を判断する論理システムを持っている筈です。只そのようなロジックを組み立てるには、教育プロセスの一環である大学の環境は非常に重要だと思います。その視角からでは、私は母校である東京外国語大学に感謝しています。なぜなら、知識の世界で視野を

広げるチャンスが得られる舞台であったからです。

私は、言語的な勉強は勿論、それ以外も歴史や、文学や、経済など幅広く興味を持つようになりました。その結果、習慣的に未知なことに対して興味持つようになり、家庭内でも仕事上でも充実楽しい日々を送っています。

留学生の皆さんは、きっと全員それぞれ大きな夢を持って、ご家族と離れ離れになり、各自の遠方探しに日本にやってきたと思います。非常に大変な異国生活の中で、ぜひ目先の不満や窮地に囚われず、その先には可能性満杯の遠方と詩が待っていることを忘れないで頑張ってください。

6-2 奨学金支給へのお礼(その1)

国際社会学部 日本地域2年

サイ キョウビン(香港)

この1年間、東京外国語大学留学生支援の会に大変お世話になりまして、ありがとうございます。

奨学金をいただいたおかげで、アルバイトの量を減らせて、悩むことなく、勉強に専念することが出来ました。一年生として、大学生活の始まりとはいえ、留学生の私は家を離れ、一人で日本に来て、色々なことも適応し、結構大変でした。支援の会の皆さまは一年生の私を支えてくれ、誠に感謝します。

また、奨学金が縁になって、いろいろな支援の会の活動に参加できて、学生として非常に充実した生活を送ることができました。一番いい思い出は他の留学生の皆と一緒に浅草に旅行し、ちゃんこ鍋を食べたくさん友たちを作ったことです。それは珍しい経験と思い、大切にしています。

そして、私にとって、支援の会は経済の支援だけではなく、心を支えてくれる力も与えてくれました。毎回挫折があったとき、支援の会のサポートを思い出し、乗り越えられるようになりました。ですので、奨学生になって、徐々に自信を持つようになり、予想よりいい成績も取れました。いま、2年生になり、この気持ちを忘れずに、頑張りたいと思っています。

最後に、この1年間に暖かく見守って下さった支援の会の皆様、本当にありがとうございました。

6-2 奨学金支給へのお礼(その2)

大学院後期課程

Milutin (Michael) Rajkovic(カナダ)

I would like to take this opportunity to sincerely thank you for both the moral and financial support I have received from this organization over the past year.

Being an ISSA (International Student Support Association) scholarship recipient has meant a lot to me. It has allowed me to focus wholeheartedly on completing my studies by providing me with much needed financial relief.

The scholarship I received allowed me to cut back on the hours I had to work during the week and to spend more time reading, writing, and developing ideas that I will incorporate into my dissertation. I have been able to make great progress this past year and that simply would not have been possible without your support.

Aside from the financial support, I am also very grateful for the sense of community and belonging that ISSA has provided me with. It is quite apparent to anyone who participates in ISSA activities that all the members who make up this wonderful organization are incredibly kind-hearted, sincere, and dedicated.

I am grateful to have been surrounded by such wonderful individuals and have inspired by the actions of ISSA members to try even harder and to make a positive contribution to someone's life.

Thank you again for everything you have provided me with and for the trust you have placed in me. I will continue to support ISSA whenever I can and am honored to have been selected for the ISSA scholarship.

ACTIVITIES

ご入会・ご寄付、誠にありがとうございます。

新規加入者

■一般会員(敬称略)(平成28年2月1日~5月30日)

浅井一秀 浅野太 安達裕之 阿部達彦 天賀谷治久
天野猛 安益模 安東康彦 池田道夫 石井智子
石堂達空 石原早紀 市村瑞輝 井出明彦 伊藤知行
井堀雅禎 今井田克己 岩倉尚之 上野安衣 打田輝美
宇野信 榎本万澄 遠藤美央 遠藤美奈 大石靖忠
大黒和也 大澤一郎 大澤浩元 太田原建 太田浩道
大野紘輔 大家昌五 岡野夏美 岡部昌子 小川美由紀
小作敏之 小田香百合 小沼美保子 笠島広文 粕淵卓也
片岡秀二 橋瑞穂 叶内真帆 金澤匠 金川梨紗
神山貴子 亀岡英子 亀山ちひろ 川上友規 川上良二
河本明子 菊池努 岸謙悟 北川哲也 北村寛
國枝哲 久保謙太郎 久保雅聖 熊谷有佳 熊澤奨太郎
桑原勝代 後藤祥文 小林奨 小林知己 小林昌樹
小舟邦浩 小山幸子 紺谷徹 近秀明 齋藤郁
齋藤宏樹 齊藤博 酒入健一 櫻井郁男 佐藤明子
佐藤倫 佐藤槌子 佐藤大輝 佐藤美津恵 佐藤由佳
澤口幸喜 シアード・カラム 塩田敦子 塩月奈津子 庄司力
白川千明 白川雪琦 白杉夏実 須一陽子 菅原恵美子
杉山信 須合由佳里 鈴木明敏 鈴木克美 鈴木清子
鈴木淳之佑 鈴木伸二 鈴木順雄 鈴木雅子 鈴木由紀
園部洋奈 高石秀貴 高木早紀 高木泰平 高崎莉沙
高野愛子 高橋巳代治 高柳修二 武井武 武田茂人
武田玲子 武山修 田中花純 田中真人 谷口覚
谷口美樹 田端遥 千葉智則 中条彩子 陳映桐
都崎理奈 辻元亨一 堤健二 當野恵 榎坂昌業
徳永英子 富内遼 富田良浩 永井祐一 長尾泉美
中川正太郎 長澤祐二 中島彩良 中島万里子 中本美希
中森ゆかり 那須紀夫 成沢孝司 西田道夫 庭野悠汰
根岸将幸 野口精一 野田幸一 野津真一 登坂奈生
野村純太 野村和 橋本隆二 長谷川浩 長谷川正明
八田留稀乃 濱田和紀 早川珠美 早坂美佐江 林田由加里
林英成 姫野唯一 樋山晃 平井治 福永充史
福家渚紗 藤井政次 藤岡利之 保坂妙子 星野妙三

堀史朗 本間周平 前田稔 増淵次郎 松下千津子
 松村広幸 松本真一良 真中栄一 三上航志朗 三上愛乃
 水落邦夫 水田貴利 三栖勉 水野明美 水野博文
 三井基義 美濃部茂 宮内香絵 武者孝志 本橋春紀
 森口史子 森下敏孝 山岸隆幸 山口文江 山倉順一郎
 山田恵理華 山中隆 山本菜摘 横澤春生 横田志保
 横田晴充 善方徹 吉田耕三 吉村泰広 鷺尾まゆ
 渡辺利光 和田佳宏

■協賛会員(敬称略)

笠原佳吾

会員寄付者

■一般寄付(敬称略)(平成28年2月1日～5月30日)

五十幡圭右 鹿嶋俊文 北村寛 小泉和生 古賀まゆみ
 齋藤祐一 佐藤桂子 菅原恵美子 竹内和夫 田中啓雍
 頼母木久代 三宅真理 森健祐 鷺澤祐子

※異体字のために正しく表記されない場合がございます。

※万一お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。その節は、当会までお知らせくだされば幸いです。印刷できない外字等、ご了承ください。

3月31日現在
 会員数：989名

すべての活動は、皆様の年会費とご寄付で行われております。本年度会費を同封の振込用紙にてお振込みくださいますようお願い申し上げます。

※ ひとりでも多くの方々の早期納入のご協力をお願い致します。

一般会員：年会費 3,000円

協賛会員：年会費 20,000円

幹事会

下記のとおり幹事会を開催しました。

平成28年5月15日(日)

平成28年7月10日(日) [予定]

秋期バザー

秋期バザーを開催いたします。

開催：10月3日(月)～10月4日(火)

場所：国際交流会館2号館交流ホール

バザーの開催に向けて、バザー用品をご準備、ご手配いただきたくお願いを申し上げます。

バザー用品受付期間

9月26日(月)～10月2日(日)

お送りいただきたい物品

■各種辞書、コミックなど

■台所用品(小型の鍋、フライパン、電気炊飯器、レンジ、トースターなど)

■日常生活用品(自転車、鏡、タオル、毛布、布団、食器、衣類、電気製品、保存のきく食品など)

※一人で持ち運びが不可能な大型電気製品については、電話で042-330-5183(梅田 火・水・金のみ)まで事前にご連絡をお願いします。

※衣類や布ものは、新品同様またクリーニング済のもの、できれば若い学生向きの秋・冬物を希望します。

送付先 東京外国語大学留学生課気付
 東京外国語大学留学生支援の会
 〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
 TEL:042-330-5183

送料 宅配便等で品物をお送りいただく場合には、恐れ入りますが、送料のご負担をお願いいたします。

「午後便」をご指定下さい。

連絡先

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

東京外国語大学 留学生課気付(梅田、谷川)

TEL:042-330-5183/5759

FAX:042-330-5189

東京外国語大学 留学生支援の会

No.53
年3回発行

Since 1999

会報

会員の皆様、ホームステイやバザーにご協力ありがとうございます。
留学生から感謝の言葉が多数届いております。
今年も「国際交流の夕べ」(12月9日開催)で留学生と交流しませんか。

Pick Up
Event 2015

留学生支援の会の幹事になってくださる方はいらっしゃいませんか。
興味のある方、幹事の役割につきまして当会までお電話でお問い合わせください。

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学留学生課気付 TEL 042-330-5183/5759 FAX 042-330-5189

<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

INSIDE

- Page 1. 1. 巻頭言
- Page 2. 2. ご挨拶
- Page 3. 3. 活動報告
- 3-1 歌舞伎鑑賞教室の報告
 - 3-2 各国文化紹介
～お茶とお菓子を通して
 - 3-3 地域交流
 - 3-5 秋期バザー
 - 3-6 国際理解教育
- Page10. 4. ホームビジット&ホームステイ
- 4-1 ふじのくに留学生ツアー
 - 4-2 夏休みの素晴らしい体験
 - 4-3 北海道へ行こう
- Page12. 5. 奨学生の声
奨学金支給へのお礼
- Page13. 6. 日本文化教室の先生の声
茶道教室
- Page14. 7. これからの活動
国際交流の夕べ

FOCUS

1. 巻頭言

留学生に期待する

東京外国語大学 学務部長
池田三喜男

「フレンドシップ・ジャパン・プラン」をご存知でしょうか。

日本語では「外国人青少年受入倍増計画」と呼んでいました。文部科学省が策定した初等中等教育段階の青少年交流を促進するための計画です。当時、約4万人の外国人青少年が日本の学校を訪れ交流していたところを、5か年で、倍増の8万人の交流を目指す計画でした。

海外から来た中学生・高校生が、日本国内の中学校や高校を訪問し、授業を一緒に受けたり、日本の伝統文化に触れる活動をしたり、日本人生徒の家庭にホームステイをしたりして、日本のこと、諸外国のことを相互に理解してもらうことが目的です。

私はその仕事に関わっていました。ほとんど知名度のない計画でしたが、日本の生徒も外国の生徒も生き生きと活動し、国際交流の小さな種が芽生えていくのだと、その当時の場面が思い出されます。

この計画をひとつの契機に、現在でも各種の国際交流団体が外国の子供たちを日本に招く活動を活発に進めています。本学にこの経験をした留学生が在籍していればうれしく思います。余談ですが、この計画は国土交通省の「訪日外国人旅行者」の増加施策の一部にも位置付けられていました。

一方、大学レベルでは、政府は「留学生 30 万人計画」を策定しています。日本を世界により開かれた国とし、アジア、世界の間ヒト・モノ・カネ、情報の流れを拡大する「グローバル戦略」を展開する一環として、2020 年を目途に 30 万人の留学生受入れを目指すものです。

日本では、このように 10 代半ばから大学段階まで各年代を通し外国人留学生の受け入れを積極的に行い、日本の学校教育の国際化を進めています。

2014 年に本学はスーパーグローバル大学創成支援に選定され外国人留学生数を 2014 年から 2024 年の 10 ヶ年に倍増させる計画を策定し、大学のグローバル化を推進しています。

特に、2015 年には世界展開力強化事業(中南米)、2016 年には同(アセアン)が採択されました。前者は「中南米が取り組むべき地球規模の課題、例えば、環境、資源エネルギー、食料、社会・経済開発等の課題を解決するため 3 大学(本学、東京農工大学、電気通信大学)が連携して実践型グローバル人材を育成」することを、後者はミャンマー、ラオス、カンボジアの留学生に対し「日本と日本語を理解する知日人材を広く育成し、現地で日本教育・日本語教育に当たる教育人材を育成」することを目的にしています。この2つの事業は政府の重点的な取り組みの一環として進められています。

これ以外にも、本学では外国人留学生の教育プログラムはもとより、課外・社会活動や支援活動が、留学生支援の会などの団体や本学のサークルからたくさん提供されています。

ぜひ、様々な活動に参加し、本学の学生生活を楽しんでいただきたいと思います。

本年 10 月には、外国人留学生の日本における就職活動を支援するためグローバル・キャリア・センターに専門のアドバイザーを配置しました。日本の企業等に就職を考えている留学生の個別相談(毎週水曜

日)に応じます。詳しいことは本学ホームページをご覧ください。

東京外国語大学の留学生には、日本と世界を結ぶ人材として、地球規模の課題を解決する人材として、母国の指導的立場として、或いは日本の企業で中心的な立場となり活躍してくれることを期待しています。

最後になりますが、日本から海外に留学する場合、留学生課をはじめ関係者が、現地で事件・事故等に巻き込まれることのないように日々心配しています。それと同じように本学の外国人留学生が日本国内で事件・事故に巻き込まれることのないように常に心配しています。治安が比較的良いと言われる日本ですが、事件・事故等にあわないことを願っています。

2. ご挨拶

二つのテロ事件から思うこと

会長 中嶋 洋子

二つのテロ事件とは、パリの同時多発テロそしてもう一つは、チュニジア博物館テロです。前者は皆様よくご存じだと思います。

念のため、前者の、ジャーナリストのアントワヌ・レリスさんがフェイスブックに載せた文章をここに再掲します。

君たちに私の憎しみはあげない

君たちを憎まない。金曜(13日)の夜、君たちは素晴らしい人の命を奪った。かけがえのない人、私の最愛の人、息子の母親を君たちは奪った。

君たちがだれか知らないし、知りたいとも思わない。君たちは死んだ魂だ。憎しみという贈り物を君たちにはあげない。怒りで応じてしまったら、君たちと同じ無知に屈することになる。

今朝、彼女と会った。金曜日の夜に出た時のま

ま、そして私が恋に落ちた12年以上前と同じように美しかった。もちろん悲しみに打ちのめされている。君たちの小さな勝利を認めよう。だが、ごく短い時間だけだ。妻はいつもわれわれとともにいて、再び巡り合うだろう。君たちが決してたどり着けない自由な魂の天国で。

息子と2人になった。もう、君たちに構っている暇はない。メルビルが昼寝から目を覚ますから一緒にいなければならない。まだ17か月。この子がずっと幸せで自由に生きていけば、君たちは恥を知ることになる。だから君たちを憎むことはしない。

そして、二つ目、チュニジア博物館テロについて、文藝春秋(2016年7月号)で、成瀬洋二さんという方の、柳田邦男さんが聞き手となった文章を見ました。題名は「イスラム国に妻を殺されて」という、衝撃的なものでした。

成瀬さんは事件以降すべてをシャットアウトしてきたとか。私などには想像を絶するご本人の精神の葛藤の中で、亡くなられた奥様の言葉を使って、自分に語り掛けた次の文章を以ってご自身の世界を創造されたのです。以下にその文章をご紹介します。

洋さんへ

あんた毎日、生きていたって何の張り合いもない
早く死にたい、死にたいっていつてるけど
自分勝手よ、文吾はあなただけでも
生きて戻ってきてくれたのが
心の支えになってるのがわからない？
こんな死に方をしてしまっただけのあたしの
最期を看とれなかったのがあの子は
とても心残りになってるの
文吾があなたの最期を看とって
父ちゃん!!これで母ちゃんのそばにやっ
とけるね、今まで頑張ってくれてありがとう
って心から言えるまでしっかりしなきゃ
だめじゃない。あたしめめしい男は
嫌いってよく言ってたでしょ
お願いよ

(引用注:「洋さん」は成瀬洋二さん、「文吾」は息子さんです)

さて、現実に戻り、会員の皆様、寒くなってきました。お変わりなく、そして平凡な日々をお過ごしでしょうか？

皆様が、上記のような突然の悲劇に見舞われたとしたらどう対処しますか？ 時にはこんなことも考えてみたいと思います。

REPORT

3. 活動報告

3-1 歌舞伎鑑賞教室の報告

日時:2016年6月5日(日)14:30~16:40

場所:国立劇場

参加者:留学生54名、日本人学生10名、
外大事務局2名、幹事10名(合計76名)

国立劇場の歌舞伎鑑賞教室に行ってきました。

参加したナザロワ・グルジャホンさんが記事を書いてくれました。

Mystery of KABUKI

大学院 (PCS)

ナザロワ グルジャホン

(ウズベキスタン)

“Once upon a time there was a man in Japan who started dancing and acting like women, which led to a new cultural invention. And it is still popular. There acts only male actors.” This was the only thing that I knew about Kabuki before being invited to the Kabuki performance. First of

all I was scared, because I was told that Kabuki is very difficult to understand, and actors use ancient Japanese words, that even Japanese people do not know. Even though, I really wanted to see that performance and afterwards I found that Kabuki was created by woman not man and it has deeper history than I thought. Kabuki means - the art of singing and acting. One lady whose name was Izumo no Okuni (about 1603) who had very beautiful talent of singing and dancing started performing new dancing drama which brought popularity. However, after couple of decades, about 1630s women was banned from performing and male took their place. Men started playing both roles; male and female, which brought more popularity to Kabuki. Nowadays Kabuki is still popular and it reflects the trend and fashion of the times, and it has continued to evolve from its birth.

The performance of modern Kabuki which I visited, was written by Kawatake

Mokuami, has two acts and three scenes. The formal title is “Shinsarayashiki Tsuki no Amagasa”, but now it is known as “Sakanaya Sogoro”. This story is about a man Sogoro who breaks the temperance pledge when he knew about the truth of the death of his sister Otsuta and he loses control of himself. This masterpiece was easy to understand, because all actors’ impressions were so clear and you just find yourself among them the whole performance. And it is hardly believe that female roles were played by male actors. Moreover Kabuki is full of mystery – the stage, decorations, actors with flying abilities and etc. everything is so real that you cannot believe that you are in the theatre and people are acting in front of you.

It was amazing experience, being inside this story.



国立劇場の前で

3-2 各国文化紹介—お茶とお菓子を通して 留学生と日本人学生の交流会が開催されました

日時：2016年10月26日（水）11:50～14:00

会場：アゴラ・グローバル1階

プレゼン国：ロシア、エジプト、アメリカ

各国文化紹介を約150人近くの学生の参加をもって開催しました。

2006年に開始してから、この行事も20回目となります。

そこで、これまでの開催記録をまとめてみました（次のページに掲載）。延べ61か国の留学生たちが自国の文化を紹介してくれたこととなります。

この行事は留学生たちの母国を知ってもらいたいとの要望に答えるだけでなく、学内の日本人学生と留学生の交流が少ないとの声を聞いて、その垣根をはずして交流を深めてもらいたいという目的もあって始めたものです。

今年も例年通りアゴラ・グローバルのカフェ カステリアで、立石学長にご挨拶を頂いた後、留学生がロシア、エジプト、アメリカの順に食物に焦点を当ててパワーポイントを使いプレゼンをしました。

その後、3か国の担当者が準備したスイーツ、飲み物などや、会で用意したサンドウィッチやお寿司などのランチを味わいながら、それぞれの国のお菓子の作り方や、どこで買えるのかなど学生同士の話しが弾み、互いに交流を深めることが出来たようです。

アメリカはトウリトウというアメリカンライスクラッカー、エジプトはホンムス、ロシアはオリビエサラダなど珍しい食べ物を作って提供していました。それぞれが美味しい、珍しい味だねと参加者に喜ばれていました。

今回は学内の行事が重なり、参加者が従来より少なくて残念でしたが、来年度はもっとアピールの方法を考えて、交流が促進されるようにしたいと思っています。

（幹事：梅田）

Essay on the Cultural Exchange Event

大学院前期課程(PCS)

Justina Kivilite

（リトアニア）

On 26th of October cultural exchange event was organized in Tokyo University of Foreign Studies. It is an annual event happening few times a year, were foreign students present their countries culture and cuisine. This time 3 countries represented included Russia, Egypt and United States of America. In this event TUFSS students had privilege not only to hear about these countries' cuisine, but also to try it out as well.

First of all, I was very impressed with students' ability to do their presentations in Japanese. Students had only around 10 minutes, yet they did a marvelous job introducing their traditional dishes. I especially enjoyed how one of the presenters from Russia, Boriss, introduced Russian cuisine giving comparison with Japanese ones. Egypt's presentation was also very fluent in Japanese. I think students ability to talk in Japanese that well in a way inspires others to study Japanese as well, because it shows that it is not impossible to reach same level of fluency.

Secondly, I believe that all organizers put a great deal of work preparing snacks, drinks and dishes. It was very interesting to try out their local cuisine. I especially enjoyed the different teas and coffee. I heard that Boriss even made mayonnaise himself for Russian salad called 'olivie'.

But it was not only students that put a lot of efforts for the event. Each group had

some volunteers, a few women living around Fuchu city. All of them are very lively and interesting. I tried to have a chat with all of them, and some had their kids studying at TUFs. We agreed to meet next time during this event, and they even said they would

help me once I do my presentation about my own country.

I think these types of events are really good to get to know other fellow students and Fuchu city community members. So I really appreciate efforts of all organizers.

各国文化紹介 開催記録 (杉森作成 2016.10.27 現在)

	年	月/日	開催国	備考 (人数は参加者数)
第1回	2005	6/23(木)	イタリア・タイ・トルコ	(於)支援の会連絡室 78名
第2回	2005	12/1(木)	フランス・インドネシア・モンゴル	(於)支援の会連絡室 75名
第3回	2006	6/22(木)	ブラジル・ドイツ・ロシア	(於)支援の会連絡室 80名
第4回	2006	12/7(木)	エジプト・イラン・レバノン	(於)支援の会連絡室 90名
第5回	2007	6/21(水)	フィリピン・シリア・ウズベキスタン	(於)支援の会連絡室 60名
第6回	2007	12/4(火)	ボスニアヘルツェゴビナ・イエメン・コロンビア	亀山学長と北脇先生ご挨拶 (於)学生会館円形ホール 150名
第7回	2008	7/9(水)	韓国・エルサルバドル・マケドニア	第1回留学生と日本学生の交流 (於)学生会館円形ホール 155名
第8回	2009	1/21(水)	ベトナム・カンボジア・インド	第2回留・日学生交流・軽食用意 (於)JCL 談話室 100名
第9回	2009	7/24(金)	台湾・ネパール・ノルウェー	第3回留・日学生交流・軽食用意 (於)JCL 談話室 130名
第10回	2010	1/22(金)	オーストラリア・グアテマラ・スロバキア	軽食用意 (以降～現在) (於)交流会館交流ホール 160名
第11回	2011	6/15(水)	イラン・インド・ベトナム	亀山学長ご挨拶 (於)アゴラ・グローバル (以降～現在) 150名
第12回	2011	11/16(水)	キルギス・モンゴル・イタリア	亀山学長ご挨拶 200名
第13回	2012	6/20(水)	オランダ・ルーマニア・シンガポール	亀山学長ご挨拶 150名
第14回	2012	11/7(水)	トルコ・タジキスタン・フィンランド	亀山学長ご挨拶 150名
第15回	2013	7/10(水)	ブラジル・ミャンマー・スリランカ	立石学長ご挨拶 250名
第16回	2014	1/22(水)	ラトビア・スペイン・ベラルーシ	立石学長ご挨拶 200名
第17回	2014	7/2(水)	メキシコ・ウガンダ・ガーナ・インドネシア	200名
第18回	2015	1/28(水)	韓国、タイ、ウズベキスタン	150名
第19回	2015	10/21(水)	アルメニア、アゼルバイジャン、シリア	200名
第20回	2016	10/26(水)	アメリカ、ロシア、エジプト	立石学長ご挨拶 150名

3-3 地域交流

日時:2016年10月15日(土) 留学生:7名参加

留学生がお寿司の握り方を体験しました。

武蔵野ライオンズクラブからの招待。この他、日本古来の伝統芸太神楽を鑑賞しました。参加したオブライエン・ローカンさんが記事を書いてくれました。

Invitation to the Dinner by the Musashino Lions Club

ISEP

オブライエン ローカン
(イギリス)

On the bright and sunny Saturday morning of October 15th a small group of international students met for a “sushi party” that TUFSSISSA had organized in collaboration with the Lions Club in Musashi-Sakai. With little idea of what to expect, we congregated with a number of other local university and school students. After an enthusiastic opening from the Lions Club members and introductions all around, the star of the show was presented: a talented sushi master with years of experience, who was there to impart some of his expertise to eager university students and excited school children alike!

Having been instructed in various techniques, from nigiri to maki and inari, a wide range of beautiful fleshly sliced fish and cooked rice was brought out and it was time to get to it. We had great fun trying our hand at the techniques that take years to master. With the chef on hand to offer advice and moral support some of the TUFSS students produced some very professional

looking (not to mention delicious) sushi.

With our bellies bursting with sushi and a desert of flesh fruit, the surprise afternoon entertainment arrived. Three talented women in kimono wowed the crowd with traditional and skillful performances including juggling and making surprisingly realistic silhouettes with just a pair of scissors and a sheet of white paper. Some TUFSS students were even called out from the crowd to participate and went home with some great souvenirs.

It was fantastic afternoon and a unique opportunity to try our hand at a fundamentally Japanese activity, which is usually reserved for experts only.



食べるだけでなく自分で握る体験ができました

3-4 秋期バザー

2016年秋期バザーへのご協力
ありがとうございました

東京外国語大学留学生支援の会

秋期バザーを、10月3日、4日の2日間、交流会館2号館の交流ホールで開催しました。

今回は、外語会の強力なご支援もあり、春期の4倍ほどの多種多様な品物が集まりました。外語会の皆様

には深くお礼を申し上げます。

人気のお布団、毛布、マットなどの寝具類を始め、電気炊飯器、冷蔵庫、電子レンジ、掃除機、アイロン、洗濯機等々の電器製品、文房具、靴、秋冬用衣類、着物、机、本箱、鍋、フライパン、ケトル等の台所用品、日用雑貨、食品など、会場に収めきれないほど、たくさんありました。

最初の日、開始の30分前から留学生がドアの前に集まり、開始と同時に部屋が留学生で動けないほどの人数で、2日間で約250人が参加しました。

今回は、人気の布団や電気製品は、値段を付けて展示しました。新製品は1500円から、自転車は1000円、その他のほとんどは100円以下に、書籍は無料にしました。自転車は抽選にしましたが、1台の自転車に50人以上の応募者がありました。

参加した留学生たちは、新しい生活を始めるのに必要なものが、バザーでそろえられることがとても嬉しい、こんなに安くて信じられない！などと言いながら大きなものから小さいものまで色々と選んで、喜んで持ち帰っていました。

今回も日本人形、うちわなど日本的なものをたくさん頂き、ほとんどがなくなりました。また、会員の方お二人が自宅で精米したお米をたくさん送ってくださり、後でお店で買ったのよりずっとおいしかったと留学生が感謝の言葉を伝えてきました。留学生の多くが、このバザーは私達にとって来日「最初の幸運！感謝します」と言ってくれました。

これも会員の皆様のご協力のおかげ、と疲れなど吹き飛んでしまいました。

今年はバザー担当の会員に新会員の方も加わって下さり、沢山の品物を仕分けしたり、売り場を担当したりして協力していただきました。

残った品物は、次のバザーに回すことにしました。

バザーの収益金は、196,000円でした。

* いつもながら毎回、送料もいわず、様々な品物を提供して下さった会員の皆様には、留学生ともども心から感謝申し上げます。

(幹事:梅田)



会員の皆様のご協力のおかげで留学生に喜んでもらえました

Thank You for ISSA Staff

ISEP

Watanabe Dalia

(メキシコ)

I think the bazaar is a great idea to help international students to buy cheap things to our daily life, such as kitchen tools, cleaning articles, dishes, clothes, etc.

The things that were sold at the bazaar were really useful to us and with really good prices. Also, the conditions of the articles were really good, some of them looked as new ones and they were really cheap.

I liked that there was a lot of kinds of articles and all of the students could buy good things. I want to thank the bazaar staff for organizing this kind of event for us.

It was really helpful and useful for our daily life here in Japan. The bazaar was well organized and the time of the event was suitable for us.

3-5 国際理解教育

日時: 2016年8月17日~20日

場所: 井川自然の家(静岡県)

留学生がサマーキャンプに参加しました。

留学生が、大学を通して応募した多文化体験のサマーキャンプに参加。そこで子供たちに自国の文化を伝えることが出来たという記事を投稿してくれました。

A Wonderful Experience and Good Memory of Celulas Summer Camp

大学院博士課程

Kallon Emmernuel Vincrnt Nelson
(シオラレオーネ)

I am extremely overwhelmed with happiness owing to the wonderful experience I had with excellent and bright Japanese children, their teachers, other international students, as well as staff of the Celulas Organization, from 17th to 20th of August, 2016, at the summer camp that took place in Shizuoka, some kilometers away from the capital Tokyo.

The camp was an opportunity to meet and interact with Japanese children of different ages and mindset, and to share with them some of our country's culture, the school systems for children, and famous activities, places in our countries.

The summer camp was very much important to me and other international students especially because, we were able to learn substantially from the children some of their informal school games, dance and sing style, and at some point in time, we all did it jointly, making the camp very much interactive, enjoying and was also educative for the children.

More importantly, I particularly learned that, Japanese school children are very much intelligent, smart, and can understand new ideas within short period. I also noticed that, the children were very much obedient and respectful, friendly, and kind to each other and to us as their group leaders during this camp exercise.

After I did a presentation on my country, these young brilliant children asked many questions such as, the country's main food, capital city and number of tribes in the country. Each of the children had



大勢の子供たちと交流できました

a notebook awaiting my answers and they immediately wrote the answers down in their notepad as they wanted to learn and know more of other countries and people, the children said. I was so happy too as I also wanted to tell them more of my country and culture.

As I was one of the group leaders comprising 31 children, I taught the children one of my country's traditional songs "YEKADE", which we showcased during the group competition at the campfire night. There were three groups each comprising leaders from different countries with different cultural background, and their countries songs were also displayed at this campfire night. This night was very much unique, as we dance together with the children, singing many songs along with their teachers and staff and President of the Celulas Organization. We also played many different games common in Japan and from our respective countries.

During this camp, as my Japanese speaking is still poor (though working hard to improve it), these children were at every given time ready and willing to help me with few Japanese speaking vocabularies and in some extreme cases, helped me during role play to read some of the hiragana and katakana characters. What a wonderful children indeed! In fact, I hadn't wanted the camp to come to an end so too were the children, because it was a wonderful friendly environment and with much of beautiful nature all around us. The weather at this camp location is particularly favorable, ideal and calm, right on top of the mountain and we did oversee the unique valley.

Celulas staffs were very much helpful, delightful and accommodating to all the international students and the children as well. They planned the camp beautifully well so that each of the participants enjoyed to the fullest. It was indeed a wonderful moment we all had together during this camp.

As playing with children happens to be one of my hobbies, I am very much grateful to the Celulas Organization for providing me this opportunity as it made my summer holiday a jolly one, and would like to participate in any more.

EXPERIENCE

4. ホームビジット&ホームステイ

4-1 ふじのくに留学生ツアー

富士山麓や駿河湾をめぐるツアー
留学生 17 人が参加して開催

静岡県沼津市などの有志でつくる「ふじのくに留学生支援の会」(松下宗柏代表)が、8月1日(月)~3日(水)に「ふじのくに留学生ツアー」を実施しました。



今年も留学生が大勢参加しました

The language wasn't a barrier between me and the family: I tried to speak everything I could in Japanese, but when I couldn't understand what they were saying, they would try to make gestures or speak slowly and with fewer words, or even use an app on their phones to translate for me. Some of them could only speak Japanese, but it wasn't a problem at all for us to communicate in other ways. It was a great opportunity for me to practice my Japanese, and the family was very patient with me trying to deliver a message in their language.

I slept at Fujioka san's house on the first night and at their daughter's the following 3. He took me to Nara, Kyoto, Osaka, and Wakayama, where we stayed the last I was there. His daughter also took me sightseeing around Sakai (their town), shopping, and even did hanabi with me, her friend's kids and her daughters. They would take me to eat foods I liked, like sushi and soba, and that were very sweet.

I am glad I was assigned to stay with this family! I came back to Tokyo with new friends and amazing memories that I will have for the rest of my life!



東京外語大留学生
日本の文化を体験
県東部でツアー
東京外語大で学ぶ
各国の留学生を招き、
富士山麓で日本文化を
体験してもらう「ふじ
のくに留学生ツアー」
が1日、沼津市で始ま
った。3日まで。
県東部の有志でつく
る「ふじのくに留学生
支援の会」(松下宗柏

代表)が2012年か
ら続ける事業で、今回
はウズベキスタンやチ
ェコ、ブラジルなどが
17人が参加した。
1日は清水町の柿田
川公園を見学後、松下
代表が住職を務める沼
津市の長興寺で茶道や
座禅に挑戦した。ウズ
ベキスタンのパフロモ
ワ・アジザさん(23)は
「茶道の作法は難しい
けれど、自分でたてた
抹茶はとてもおおいし
い」と話した。
一行はホームステイ



茶道の作法を学ぶ留学生と沼津市の長興寺

(8月2日付静岡新聞から転載)

4-2 ホームステイ

——夏休みの素晴らしい体験

学部1年
バレンティナ
(ブラジル)

I stayed with Fujioka's for 6 days in August of 2016 and I had an amazing time with all of them! Thanks to their kindness and desire to show me Japan and the Japanese culture as much as they could, this homestay really made my summer break wonderful with all the great moments they have provided me with.

4-3 ホームステイ ——北海道へ行こう

JLC 学部進学留学生
プラシャント
(ネパール)

7月20日、北海道へ行くため、先輩と一緒に成田空港から飛行機に乗りました。3時間のフライトで私たちは春に戻りました。即ち、北海道へ着きました。

それから、電車に乗って小樽まで行きました。途中で北海道を初めて見る機会を持ちました。電車内から見た景色は素晴らしかった。人が少ない所だけでなく、人が大勢いる所もありました。

とうとう小樽駅に着きました。そこで望月さんと会いました。望月さんは私たちを自分の車に乗せて家まで連れて行ってくれました。

その夜、私たちは望月さんの家で寝て、次の日からいろいろな所へ連れて行ってもらいました。これからその5日間の北海道での経験について書きます。

1日目) ゆり園へ行きました。いろいろな素敵な景色を見ました。とても素晴らしくて、言葉で言えないほど嬉しくなりました。

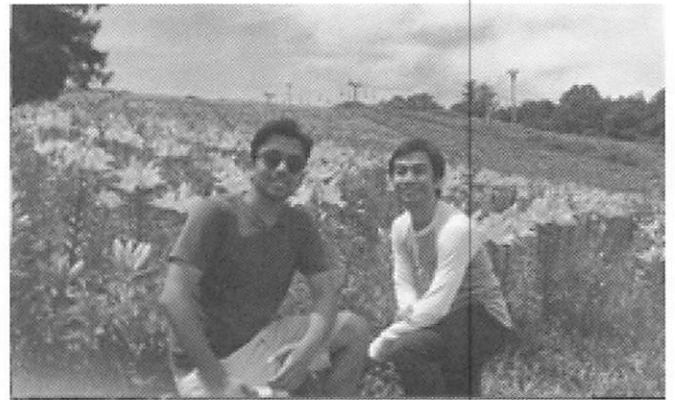
2日目) 小樽の電車美術館と天狗山へ行きました。電車美術館で日本のそれぞれの時代で使われていたいろいろな電車について習いました。天狗山は冬に小樽のスキーをする山だけでなく、天狗という悪魔に関する有名な山です。

3日目) 札幌と北海道大学へ行きました。札幌タワーやビアガーデンなどを見物しました。それから、北海道大学へ行って、そこで勉強しているスシャント先輩と会いました。話し聞いて、北海道と北海道大学のことをよく習いました。

4日目) Nikka Distilling (ニッカウイスキーの蒸留所)、Berry Berry farm (ベリー農園)と、ふと出会った海岸へ行きました。天気がよくて楽しめました。

5日目: Hiyoriyama lighthouse (日和山灯台) Temiya park、Otaru canal (小樽運河)、Seiun-Maru (星雲丸)、Asarigawa onsen (朝里川温泉) や Suitengu Shrine (水天宮) へ行っていろいろなことをやってみたり、習ったりして楽しめました。

6日目) 東京へ帰る日でした。望月さんにお礼を申し上げて、北海道の素晴らしい思い出を持って、東京へ帰りました。



1日目、ゆり園にて

VOICE

5. 奨学生の声

奨学金支給へのお礼

大学院総合国際学研究科博士後期課程

朝 克 (チョコ)

(中国 内モンゴル)

私は2014年4月に東京外国語大学大学院総合国際学研究科博士後期課程に進学しました。

今年度は大学院博士後期課程3年生になり、今年度も履修すべき科目が多くあります。

現在、博士論文を書くために先行研究の整理をしていますが、それにはモンゴル語・日本語・中国語・英語など、様々な言語で書かれた文献、資料を丁寧に読みこんでいく必要があります。大変な労力と時間を要しています。

更に、論文執筆には、方法論を深く学び、検討した上で行うフィールドワーク、そこで得た調査結果の分析なども不可欠です。また、博士論文の完成に先駆けて、学術雑誌への論文投稿も予定しています。

上記のように、勉学や研究のために十分な時間を

確保しなければならないにもかかわらず、経済的に厳しい状況にあり、アルバイトを多くこなさなければならない、というのが現状でした。

また私は、奨学金や研究費など、多くの申請を試みましたが、残念ながら何一つ受けることができなかったのです。ちょうど心身が疲労していた時に支援の会の奨学金生に選ばれました。

支援の会の奨学金を頂いた御陰で、アルバイトの時間を減らし、研究生活、ひいては博士論文執筆に専念することが出来ました。

いつも暖かく見守って下さっている東京外国語大学留学生支援の会の皆様に心より感謝の気持ちを述べたいと思います。そして、将来的に研究者として認められるように一日一日を大事にして自分の勉学や研究に励んで行きますので、これからも宜しくお願い致します。



奨学生チョコさんと中嶋会長

ようとしています。

私ども「留学生のための茶道教室」は、今年度より社中がひとつになり、新たな気持ちで、留学生の皆様方に日本の伝統文化である茶道、「おもてなしの心」を基に楽しく一緒に学ばせていただいております。

「日本の利休茶道」は、大変奥の深いものです。

一朝一夕のお稽古で簡単に身につくものではないのですが、この緑豊かな外語大キャンパスの中で、日本の美しい四季折々の変化を感じながら、少しでもお茶の「こころ」を感じていただければと思っております。

忙しい授業の合間を縫ってお茶室に足を運んでいただく留学生の皆様が、ご自身で点てたお茶を頂き、思わず日本語で「おいしい！」と言う一言で、お茶室の空気が明るくなります。

お茶室では、一服のお茶で心が通い、母国のお話も聞きながら、和やかなひとときを過ごしております。

明るく前向きな留学生の皆様から、毎回教えられることも多々あり、私ども社中も、留学生の皆様と一緒に、日々勉強させていただいております。

外語大で学んだ留学生の皆様が、母国に戻ったあと、このキャンパスでの日本伝統文化茶道の体験を思い出していただければ幸いです。

私ども社中一同は、この「留学生のための茶道教室」を通じて、世界中に茶の湯の精神が伝わり、いつか平和な世界が訪れることを日々願っております。

※茶道のほか、書道、華道、囲碁などを、国際交流会館2号館にて開催(週1回)して、留学生に日本文化に触れてもらっています。

VOICE

6. 日本文化教室の先生の声

茶道教室

松井社中

11月に入り 緑に囲まれた外語大のキャンパスの樹々も色づきはじめ、早くも今年一年が終わりを告げ



ACTIVITIES

7. これからの活動

「国際交流の夕べ」
12月9日(金)

今年も！恒例の留学生との交流を是非お楽しみください。会員のご参加をお待ちしています。

日時:12月9日(金)18時～20時

会場:校内学生食堂

費用:無料

※どなたでも参加できます。なお、午後1時より、着付け・書道・折り紙などの日本の伝統文化体験を諸会場にて実施します。

ご入会、ご寄付
ご協力いただき、ありがとうございます

新規加入者

■一般会員(平成28年5月31日～11月7日)
岩井琴、金井陽子、杉山恭子、谷口知行、寺田博之、
西川敦子、福住久栄、山崎智子 (敬称略)

会員寄付者

■一般寄付(平成28年5月31日～11月7日)
浅野尚文、安藤浩行、池田修晤、池端雪浦、板久恭子、
井上東一、井上久美子、片岡護、河野喜代子、
北村みどり、拳市玲子、小島照恵、小林浩、五味和行、
新堂睦子、鈴木文子、鈴木正道、竹内和夫、寺田朗子、
中村宏、野中千恵子、野本京子、疋田妙子、松下宗柏、
三浦洋子、矢部美保、横石邦彦、横田淳子、吉田展子、
渡辺恵子 (敬称略)

※万一お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。
その節は、当会までお知らせくだされば幸いです。印刷できない外字等、ご了承ください。

11月7日現在
会員数:1,032名

すべての活動は、皆様の年会費とご寄付で行われております。本年度会費を同封の振込用紙にてお振込くださいます様、お願い申し上げます。

※ ひとりでも多くの方々の早期納入のご協力をお願い致します。

一般会員:年会費 3,000円

協賛会員:年会費 20,000円

平成28年度 会費納入のお願い
平成29年3月31日まで受付

※来年度の活動ご支援いただくためにも、是非会費納入のご継続をお願い申し上げます。納入をお忘れの方は本年度会費を同封の振込用紙にてお振込ください。

幹事会

下記のとおり幹事会を開催しました。

平成28年7月10日(日)

平成28年10月2日(日)

平成28年11月6日(日)

[お問い合わせ先]

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

東京外国語大学 留学生課気付 (梅田、谷川)

TEL: 042-330-5183 / 5759

FAX: 042-330-5189

<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

©Copyright 2016, TUFUS International Student Support Association

東京外国語大学 留学生支援の会



Since 1999

会報

春のバザー開催！3月27日(月)～4月2日(日)バザー用品募集します！！
ボランティア募集！バザーの人手が足りません。(詳細10ページ)

Pick Up
Event 2016

留学生支援の会の幹事になってくださる方はいらっしゃいませんか。
留学生の笑顔を作る活動です。興味のある方は当会までお電話でお問い合わせください。

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学留学生課気付 TEL 042-330-5183/5759 FAX 042-330-5189

<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

INSIDE

- Page 1. 1. 巻頭言
吉田ゆり子 (国際社会学部長)
- Page 2. 2. ご挨拶
中嶋会長 (留学生支援の会)
- Page 3. 3. 活動報告
 - 3-1 東京下町文化体験ツアー
佐久間幹事 (留学生支援の会)
サーリヒ・ジャン・デミル (トルコ)
ダリア・渡辺 (メキシコ)
 - 3-2 国際交流事業
梅田幹事 (留学生支援の会)
クジメンコ・ボリス(ロシア)
- Page 8. 4. 留学生の声
リ・カウ(中国)
- Page 9. 5. これからの活動予定
- Page10. 春期バザーのお知らせ

FOCUS

1. 巻頭言

留学生の就職支援

東京外国語大学国際社会学部長
吉田ゆり子

先日、日本企業の海外展開を支援する政府系の機構の方から、日本の企業さんが海外からの留学生を採用したいと思っているが、どのような大学に自分たちが求めている留学生が在籍しているのかわからなくて困っている、というお話をうかがいました。

これまで、留学生が卒業時に就職活動をしもうまくいかず苦労している姿をみてきた私は、あまりに意外な気持ちが出て、思わず目が点になってしまいました。

東京外国語大学には、多くの留学生が世界の多様な国と地域から勉強しに来ています。日本を専攻する留学生は言語文化学部と国際社会学部にそれぞれ15人程ずつ入学し、4年間在籍し卒業してゆきます。

その他にも、1年間あるいは半年のコースで、ISEPの学生さんや日本語・日本文化研修留学生や教員研

修留学生など、多くの制度を利用して来校し、中には再び来日して大学院に進学する方もたくさんいます。また、大学院博士前期課程、後期課程にも多くの留学生が進学しています。

その中で、日本の企業や日本国内での就職を希望するのは、学部を卒業する日本専攻の留学生と大学院修士課程を修了した留学生になります。これらの学生の日本語運用能力はきわめて高く、日常的なレベルから学術的なレベルまで、さまざまな角度から日本社会の特徴をつかみ、その問題点も含めて、理解を深めていますので、いわゆる知日派の外国人ということができます。

他方で、日本企業は、貿易相手国や製造拠点を置く国の出身者で、日本語や日本社会をよく知る留学生を採用し、海外進出の手助けをしてもらいたいと考えていても、どこでそうした留学生に会うことができるのか、その出会いの場がないことを嘆いているというのです。

留学生と日本企業が出会う場がない。これは大学としても真剣に考える必要があるように思いました。勿論、本学では今年度から、グローバルキャリアセンターに留学生のための就職相談を担当する方が週一回みえることになり、一歩進んだということができます。ただ、留学生の多様な志向性をつかみ日本企業や海外企業との出会いを支援することも必要であると痛感するようになりました。

現在、日本人学生さんに対しては、1~2年生の間から社会性を身につけてもらうために、経済同友会との連携で企業インターンシップを授業に取り込み単位化する取組みを進めており、来年度から実現することになりました。

日本で学んだ留学生も、産業界においても日本と世界の架け橋となり、グローバルな視点から国家や地域間の摩擦を解消する人材として活躍してくれるよう、支援の輪が広がることを祈念しています。



2. ご挨拶

私の年始

会長 中嶋 洋子

皆様、健やかな新年をお迎えになりましたでしょうか？

さて、私の年始をお話ししてみようと思います。集まった家族や親戚一同で、元旦には恒例のように歩いて10分ばかりの神社にお参りします。

しかし、今年は明治神宮に行ってみようという話になりました。原宿から明治神宮をめざして歩き出しましたが、まずは人ごみのすごさに圧倒されました。

とはいえ、少しずつではありますが、警官の機能的な誘導があり前進していきました。その上、行列を原宿方面に離れる人々は右側に、私鉄側に離れる人々は左側に、徐々に整然と整理されていきました。

その時、私ははるか昔、そう、およそ75年前の小学校1年生のころのことを思い出しました。

当時は戦争終結の1、2年前のころで、学校で年に数回、防空訓練と称して学校から自宅に帰る練習がありました。ある時、私たち1年生を先頭に夢中で校門に向かいました。しかし、後ろから追いかけてくる上級生に小さな1年生は押しつぶされて下敷きになり、本当に死ぬのではないかとその時は必死でした。どうすることもできず我慢し続け、やっとそんな状況から解放され泣きながら走って自宅に戻り、母親に抱き着いたことを思い出しました。

もし上記のような素晴らしい警官の誘導があったなら、と昔のことを思い出しました。

さて、話は戻りますが、明治神宮の行列は徐々にではありますが前進し、最前列までになんとほぼ3時間かかりました。やっと新年の敬虔な祈りを捧げたいと思いきや、硬貨をぼいぼいと放り投げて終わり！（これも警官の誘導だったのですが）何のための3時間だったのか！もう二度と来ない、

これが私の実感でした。

やっとの思いで我が家に戻り、手作りのご馳走にたどり着き、改めて祝杯をあげました。

例年通り孫たちに付き合い、近くの公園で凧あげをしたりするのを、遠くから地べたに座って眺めたりもしました。

さて、話は変わりますが、1月9日付けの日経新聞紙上に内山繁さん（写真家）という方の「帝王マイルス、撮った男」（副題：最後の10年、演奏の熱気も自宅でかいま見せた素顔も）と題する文章に引き付けられました。

その冒頭に、「ジャズの帝王マイルス・ディヴィスが死んで25年。昨年暮れには彼の天才と苦悩を描いた映画も公開された」とあります。

私は瞬時にこの映画を見ることを決めました。

マイルスのトランペット演奏の響きは、華麗で強烈で熱意の籠ったものであり私の心を十二分に引き付けました！

同時に、彼の私生活の乱れ、時に暴力、時に家族や友人たちへの愛が、狂気のようにあちこちにちりばめられていました。ある意味、破滅的なまさに“天才的”人生とあってよいと思いました。

こうして私に新しい刺激を与えてくれて、私の新年は始まりました。

3. 活動報告

3-1 東京下町文化体験ツアー ～隅田川クルーズ、浅草散策、 江戸東京博物館、ちゃんこ鍋懇親会～

日 時 2016年11月27日(日)

参加者数 留学生 50名 日本人学生 3名
留学生課 2名 幹事 9名

午前中は薄日が差していたものの、午後は小雨のあいにくの日になったが、26カ国からの留学生の参加があり、良き親睦の機会となった。

募集時期が大学祭の期間と重なったこともあり、関心が薄かったのか、日本人学生の参加が3名と少なかった。また、当日のキャンセルが9名と多く、そのうち5名は直前に繰上げた学生だった。

ともあれ、最後まで順調に進行し、ちゃんこの食事会では大いに盛り上がった。店側の対応も良く、アレルギー・宗教上・信条による食事内容の制限のある学生に対しても、よくもてなしてくれた。

おいしかった、楽しかった、との感想が聞けて、嬉しく感じた。

(幹事 佐久間)



東京下町文化体験ツアーの感想 素晴らしい一日

ISEP
サーリヒ・ジャン・デミル
(トルコ)

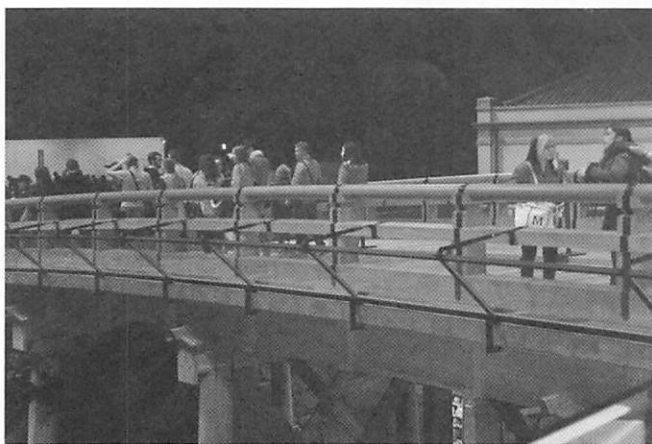
11月27日の東京下町文化体験ツアーのパンフレットを見たとき、すぐ行くようにしました。だから11月8日授業が終わったあと、参加を申し込むために留学生支援の会に行き登録しました。そのあとずっと、下町ツアーが今週末か来週末かって言って、楽しみにしていました。トルコ人の友達も申し込んだので、その人たちの中でこのツアーがよく話題になりました。

27日になって、前日の夜遅く眠ったのに、早く起きて準備をして、一号館の前の出席をとるところに行きました。駅までトルコ人の友達と一緒にいましたが、電車に乗ったら様々な留学生とお話しました。

まずはマレーシア人と英語で話して、港に到着するとき、ドイツ人とドイツ語で話しました。ずっと話し続けたので、どこからどこに行くか、どの道を使うか、よくはわかりませんでした。

船に乗る前、グループを作ろうというのはいいアイデアだと思います。なぜなら、いつも自分の好きな人と一緒に話したり、遊んだりしたら、新しい人と付き合えないからです。

船から降りて、スカイツリーを見ることは初めてでした。なので、非常に嬉しくなりました。しかも、「日本人の知らない日本語」という日本のテレビドラマで見たところを歩いたので、大変幸せでした。



江戸東京博物館管内

グループが作られていましたが、自由に誰とも遊べるって言われて、みんなが自分のグループを作りました。ただし、少し歩いて、浅草の道、特にお寺の中は人々が大勢だったので、BグループとFグループが混ざってしまって、新しいグループになりました。でも、だいたいみんなが、あまり知らなかったのを知り合いたい人でした。だから構いませんでした。

そして、うどん屋で美味いうどんを食べました。そのとき、うどんが好きではない学生たちがほかの店を探すために去りました。

昼ごはんの後、また船着き場のあたりで集合して、歩いて江戸東京博物館に行きました。遠かったので20分ぐらい歩きました。

博物館に入ると、トルコ人とまた集まって、まだ知り合えなかった人に話しかけました。博物館の中は広くて、出品されたものが多かったです。自分で経験できるものもあって、非常に喜びました。

江戸東京博物館の後、また歩きながらレストランに行きました。正直に言えば、最初からレストランのことを知らなかったのびっくりしていて幸せになりました。グループで行動していた長い時間の後、レストランで全員を見て、気分が素晴らしかったです。

さらに、雰囲気も立派でした。伝統的な和食が多くて、音楽もありました。しかし、椅子やテーブルより地面に座って食べるのが好きなので、伝統的なことをほしがりました。

夕食が終わったあと、みんなが自分の国の歌を歌ったり、ダンスをしたりして、素敵な気持ちでした。みんながいっぱいになっていて、笑顔でレストランから出ました。

それから、電車に乗って、帰るときもほかの留学生たちと話したり、冗談いったりしながらゆっくりと行きました。終日かけたツアーでしたが、確かにそれだけの価値がありました。



東京下町文化体験ツアーの感想
貴重な体験に感謝

ISEP

ダリア・渡辺 (メキシコ)

I want to thank the organization of this tour because it was a great opportunity to visit many interesting places in Tokyo.

It was really nice to ride the cruise and pass across the river and walk around in Asakusa.

The visit to the Edo-Tokyo Museum was really interesting, I liked a lot. Regarding to the last activity, it was an awesome chance to taste Japanese food, I think the staff was really kind and received us with a lot of enthusiasm, I really appreciate that these kind of tours can be held for us, thank you so much!

Thank you so much for everything.



ちゃんこレストランでの歌合戦

ご意見、感想など、会報への
投稿募集 どしどし
お寄せ下さい

3-2 2016 年度国際交流事業を開催！
「日本文化交流会」と「留学生交流の夕べ」
——留学生友好交流のために——

日時 2016 年 12 月 9 日(金) 13:00~20:30

会場 大学会館と国際交流会館交流ホール

留学生にとって毎年楽しみの、大学・支援の会・学生後援会共催の国際交流事業が開催されました。

第一部の「日本文化交流会」では昨年同様、「着物体験教室」、「華道教室」、「茶道教室」、「囲碁・将棋教室」、「折り紙・和紙人形・墨絵教室」の五つの体験教室をオープンしました。

留学生たちは、授業の合間をぬって自分の興味のあるそれぞれの教室に参加しました。着物に対する憧れは年々増すばかりで、希望者全員の要望に応えられないのは残念でした。家族や友達に送ってあげたいと着物姿を互いに撮りあっている姿は、ほほえましく、素敵に見えました。和服でお抹茶を頂く姿は日本の女性に見えました。



着物に対する憧れは年々増すばかり

生け花、墨絵、和紙人形の教室では、自分の作品を作り上げ互いに鑑賞しあいながら、素晴らしい！おみやげが出来た！と歓声をあげていました。

普段体験できない囲碁、将棋など、留学生達は初めて体験するいろいろな日本文化を楽しみながら、日本への理解を深め、日本をより身近に感じるようになったことと思います。それぞれの先生方には感謝いたします。

第二部の留学生の交流・友好を広げる場である懇談会「国際交流の夕べ」には、日頃留学生を支援、協力いただいている来賓の奨学財団、地域の交流団体の方々、大学関係者と留学生、日本人学生、総勢300名ほどが参加し、互いに交流を楽しみました。

留学生と日本人の司会による後半では、ロシアの学生のバイオリン演奏、日本人学生のベリーダンス、留学生と日本人学生、教員によるバンド演奏に、留学生支援の会演出の歌舞伎劇場等で盛り上がりました。

最後の The Kusumoto Band2015 による演奏は、2016 年の終わりを締めくくるにふさわしく、参加者全員を一つにし、来る年が留学生と日本人の交流の活性化を期待出来る交流会となりました。

第1部 13 時 ~ 17 時 日本文化交流

- ① 着物の着付け (国際交流会館 2 号館交流ホール) 参加者 50 人
- ② 華道 (学生会館集会室 B) 参加者 35 人
- ③ 茶道 (学生会館和室) 参加者 40 人
- ④ 日本の伝統的遊び (学生会館大集会室) 参加者 50 人
- ⑤ 囲碁 (学生会館集会室 A) 参加者 10 人

第2部 18 時 ~ 20 時 国際交流の夕べ(懇親会)
学生会館1階ホール 参加者 300 人 (留学生 200 人、日本人学生 50 人、来賓、大学関係者 50 人)

所感:

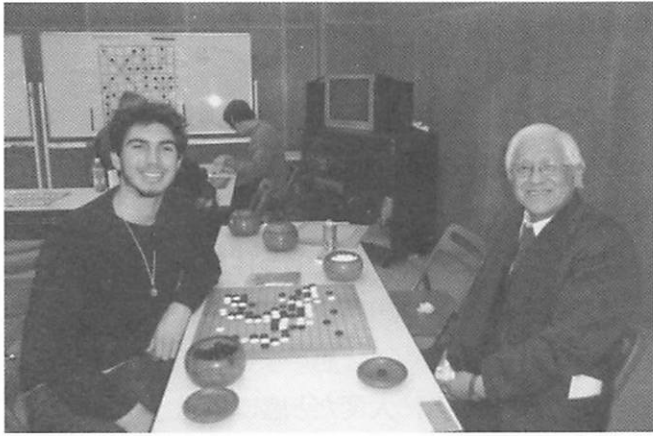
今回も広い方のホールがメイン会場になっていたの
で、パフォーマンスも見やすく、全体に一体感が感じられて良かったとの声が多くありました。パフォーマンスの中でも、留学生支援の会演出による歌舞伎劇場は、参加留学生の熱心な練習と笹岡さんの熟練した指導のおかげで、昨年以上に上手に演じて、会場から大喝采を浴びました。演じた留学生も達成感を感じた様子で、大満足の様子でした。

福引が予算の関係で出来なかったのは、心残りでした。来年度は工夫を凝らして出来るようにしたいと考えています。

(幹事 梅田)



留学生支援の会演出の歌舞伎劇場出演者



第一部「日本文化交流会」の各コーナー（上3点）

国際交流事業の感想 二度目の国際交流の夕べ

研究生
クジメンコ・ボリス(ロシア)

初めまして、クジメンコ・ボリスと申します。東京外国語大学の研究留学生です。私にとって12月9日に

行われた「国際交流の夕べ」は二度目でした。ですので、2015年と2016年との「国際交流の夕べ」を比べることができます。

結論からいうと、演奏者側も主催者側もお客さん側も進化したように感じました。様々なイベントに参加してきた私から見て、「昨年のイベントを見直し改善しよう」ということは、ちよくちよくあるものではないのです。よく同じパターンに陥り、繰り返しのままにはまってしまうケースが少なくないのですが、我が大学は違うと言って嬉しいです。

演奏者としての経験のある私の上記の意見は他者から見て「変なところにこだわるな〜！」という風に見えるかもしれませんが、大変こだわります。

なぜなら、「国際交流の夕べ」という名前からわかる通り、本イベントの本来の目的は国際交流ですね。日本人、または、諸国の方々の間に国際交流が生じるためには、それなりの工夫が必要です。しかし、「改善」という要素がなければ、工夫どころか中途半端に終わってしまいそうです。

2016年の「国際交流の夕べ」において、私はヴァイオリン演奏と留学生による歌舞伎に活躍できました。当日いらしていた皆さんは、美味しいごちそうを頂きながら、そして日本人と留学生による演奏を楽しみながら、新しい友達を作ったり、楽しい話をしたりすることができました。

雰囲気的に皆さんは大変楽しい時間、そして、楽しい交流を体験することができたと思いますし、貴重な思い出になったと思います。シャイな方でも社交的過ぎる方でもたつぷりと交流ができ、皆が楽しめたと思います。

私にとってもとても貴重な思い出になりました。ですので、東京外国語大学の「国際交流の夕べ」に関わった方々に心の底から御礼を申し上げます。ご面倒をおかけしたところもあったと思いますが、ありがとうございました。来年もぜひ参加させていただきたいです。

皆さんもご都合がよろしければお勧めです。よろしくお願ひいたします。



3-3 [新企画] 日本の伝統お祭り見学ツアー 真壁のひなまつり

日 時 2017年2月13日(月) 8:45~18:30
参加者数 留学生40人、日本人学生5人(予定)

真壁(茨城県桜川市真壁町)の『ひな祭りフェスティバル』の見学に行ってきました。多数の雛人形の見学、真壁の古くから伝わる日本家屋見学、市内の伝統的な街並み散策等を実施しました。(詳細は次号で報告する予定です。)



昼食のひなちらし御膳

VOICE

4. 留学生の声

東京外国語大学で学んだこと
論文を書くという作業

ISEP
リ・カウ(中国)

私は、2016年9月に交換留学生として東京外国語大学に来ました。半年間の留学生活を通し、いろんな

知識や体験をいただきましたが、将来に役に立つものがたくさんあると思います。

その一つは、論文を書く能力であります。東京外大のISEPの授業で論文3本を書きました。(映画分析、日本の政治史)

以前、真剣に論文を書くという体験が一度もないですが、今学期にいきなり論文が3本も入っていて、書き始める前に「あ、大変」と思いました。そして、実際に書き始めると、本当に大変だと感じました。

なぜかといえば、自分が特に得意ではない英語を使うということも原因に当たります。色々な資料を調べるのは時間がかかります。だから、12月に入ってから、ほとんど毎日を教室か図書館で過ごしたのです。

しかし、経験がないため、順調に進んでいたわけではないのです。何時間もかけたのに、結局3、4行しか書き出せなかったことも珍しくないのです。

もちろん、他の努力もしました。教授への取材を通し、日本語を活用したと思います。歴史博物館と記念館への現地考察を通し、歴史事件にもっと深く理解することもできたと思います。

論文を作るという作業はただの「書く」という行動だけではなく、あるテーマに関する自ら知識や情報を求める過程そのものでもあるということを実感しました。

つまり、学習は先生が教えるものを覚えることではなく、自分から求めることであります。大学に入ってから初めてそのことに気づきました。こういう意識はこれからの勉強にも役に立つと思います。

なお、政治史や映画についてもともと興味を持っていますが、出身の大学でこういうテーマに関する授業を受ける機会がなかったです。興味を生かすということのできたのも、交換留学のおかげだとも言えるでしょう。



ACTIVITIES

5. これからの活動予定

3月21日(火)

古都鎌倉見学ツアー

開催日 3月21日(火)
募集 留学生、日本人学生を合わせて40名
コース 新宿駅西口集合ーバスで鎌倉へー
円覚寺ー鶴岡八幡宮ー由比ヶ浜(昼食)
ー長谷寺ー鎌倉大仏ーバスで新宿へ
※コースは変更する場合があります。



ご入会、ご寄付
ご協力いただき、ありがとうございます

新規加入者

■一般会員(平成28年11月8日~29年1月26日)
大八木繁則(敬称略)

会員寄付者

■一般寄付(平成28年11月8日~29年1月26日)
会津 洋、北尾隆昭、山岸隆夫(敬称略)

※万一お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。その節は、当会までお知らせくだされば幸いです。印刷できない外字等、ご了承ください。

1月31日現在
会員数: 1,034名

すべての活動は、皆様の年会費とご寄付で行われております。本年度会費を同封の振込用紙にてお振込みくださいます様、お願い申し上げます。

一般会員: 年会費 3,000円
協賛会員: 年会費 20,000円

♪ 年度末までのお願いです ♪

平成28年度 会費納入のお願い
3月31日(金)まで受付

次年度の活動をご支援いただくためにも、是非会費納入継続をお願い申し上げます。
納入をお忘れの方、納入率アップに是非ご協力ください。本年度会費を同封の振込用紙にてお振込みくださいます様、お願い申し上げます。

幹事会

下記のとおり幹事会を開催しました。
平成28年12月4日(日)
平成29年1月22日(日)
平成29年2月11日(土)
平成29年4月2日(日)[予定]

お問い合わせ先

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
東京外国語大学 留学生課気付(梅田、谷川)
TEL: 042-330-5183 / 5759
FAX: 042-330-5189
<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

©Copyright 2017 TUFUS International Student Support Association

春期バザー開催のお知らせとバザー用品ご寄付のお願い

開催: 4月5日(水)~4月6日(木) ※2日目の6日は日本人学生も歓迎します

場所: 国際交流会館 2号館交流ホール

留学生に毎回大好評の春期(4月期)バザーの開催に向けて、受付期間をご確認の上、バザー用品のご準備、ご手配をお願いを申し上げます。

バザー用品受付期間

3月27日(月)~4月2日(日)

お送りいただきたい物品

- 各種辞書類、コミックなど
- 台所用品(小型の鍋、フライパン、電気炊飯器、レンジ、トースターなど)
- 日常生活用品(自転車、鏡、タオル、毛布、布団、食器、衣類、電気製品(一人で持ち運び可能なもの)、保存のきく食品など)

※一人で持ち運びが不可能な大型電気製品については、電話で042-330-5183(梅田 火・水・金のみ)まで事前にご連絡をお願いします。

※衣類や布ものは、新品同様またクリーニング済のもの、できれば若い学生向けの春・夏物を希望します。

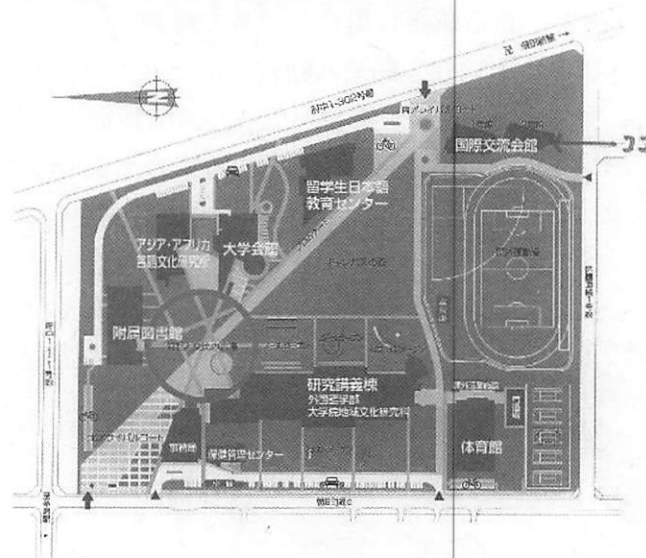
- 国際交流事業の一環としての「着物・着付け」用男性羽織・袴一式、振袖、帯など

※古着可、ただし使用可能なもの

送付先 東京外国語大学留学生課気付
東京外国語大学留学生支援の会
〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1
TEL:042-330-5183

送料 宅配便等で品物をお送りいただく場合には、恐れ入りますが、送料のご負担をお願いいたします。お手数ですが「午後便」をご指定ください。

■4月2日(日)は午前10時より直接搬入も可能です。その際は080-3080-3007(中嶋)までご連絡ください。搬入場所は下記地図の国際交流会館になります。<4月1日(土)の直接搬入は不可。>



JOIN FOR BAZAAR!

お願い バザーの人手が足りません!ご協力を!
バザー用品の物品仕分けや、事前準備・後片付けをする人手のご協力をお待ちします。

※お問い合わせ、当日のお手伝い・参加可能な方のお申し出は下記までお電話下さい。

TEL:042-330-5183 (火、水、金のみ、梅田まで)

WE NEED YOUR HELP!